平成 25 年度

# 東北学院大学外部評価報告書

平成 26(2014)年３月

東北学院大学外部評価委員会

# 目次

１．『平成 25 年度東北学院大学外部評価報告書』について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

２．平成 25 年度東北学院大学外部評価結果

・(1) 総評 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
・(2) 東北学院大学の教育における優れた点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
・(3) 東北学院大学の教育における改善を要する点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
・(4) その他所見等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
・在学生アンケート調査結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

３．参考資料

・平成 25 年度東北学院大学外部評価委員会　委員名簿 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
・東北学院大学外部評価委員会規程 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
・第２期東北学院大学外部評価　概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
・平成 25 年度東北学院大学外部評価　在学生アンケート調査　調査票 ・・・・・・・・・・ 32
・平成 25 年度東北学院大学外部評価　インタビュー調査　実施要領 ・・・・・・・・・・・・ 38
・平成 25 年度東北学院大学外部評価　インタビュー調査　タイムスケジュール ・・ 40
・平成 25 年度東北学院大学外部評価委員会　議事録（第１回～第２回） ・・・・・・・・ 41

# １．『平成 25 年度東北学院大学外部評価報告書』について

平成 26 年３月５日
東北学院大学外部評価委員会

## (1) 東北学院大学外部評価委員会

東北学院大学外部評価委員会（以下「本委員会」という。）は、東北学院大学外部評価委員会規程」に基づき、東北学院大学に設置された委員会である。本委員会は、学外の第三者による外部評価を実施する委員会であり、評価を通じて、同大学の教育・研究水準の向上及び組織の活性化に資する提言を行うことを目的としている。

本委員会は、平成 24 年度に任期満了となった第１期外部評価委員会（委員長：吉崎泰博元宮城学院大学学長、任期：平成 22～24 年度）から引き継ぎ、遠藤恵子山形県立米沢女子短期大学学長を委員長として、平成 25 年度に発足した（任期：平成 25～27 年度）。構成員は、下記のとおりである。

委 員 長　遠　藤　恵　子（山形県立米沢女子短期大学学長）
副委員長　加　藤　義　雄（元仙台市副市長）
委　　員　坂　田　　　隆（石巻専修大学学長）
委　　員　関　内　　　隆（東北大学高等教育開発推進センター副センター長）
委　　員　菅　原　裕　典（株式会社清月記社長）
委　　員　菊　地　健次郎（多賀城市長）
委　　員　須　藤　　　亨（宮城県仙台南高等学校校長）

## (2) 評価の方法、及び、本報告書の構成

本委員会は、「東北学院大学外部評価委員会規程」に基づき、平成 25 年度に外部評価を実施した。

第１期外部評価委員会からの引き継ぎ事項は、①自己点検・評価や認証評価との差別化を図ること、②評価に係る大学及び委員会の負担を軽減すること、③新たな評価手法として、在学生や卒業生などへのインタビューなどを検討すること、の３点である。

そこで、第２期外部評価では、主たる評価手法を在学生や卒業生などに対するインタビュー調査とすることを決定した。また、このほかにも基礎資料として、『大学案内』などの各種資料等を用いている。

平成 25 年度は、当該年度に在学中の全学部の３年生、並びに、卒業後５年程度の卒業生を対象としたインタビュー調査を実施し、うち在学生については、事前に教育・学生生活等に関するアンケート調査をあわせて実施した。

本報告書は、インタビュー調査終了後に各委員が作成した「インタビュー調査に係る

報告記入シート」における意見等を取りまとめるとともに、あわせて実施した事前アンケート調査の結果を収録している。

　貴大学には、本報告書を学内外へ広く公表するとともに、さまざまな面において活用されることを切望する。

### (3) 平成 25 年度の活動

| 日付 | 内容 |
|---|---|
| 平成 25(2013)年　4月　1日（月） | 第２期外部評価委員会発足<br>（任期：平成 25 年４月１日～平成 28 年３月 31 日） |
| 平成 25(2013)年　4月 18 日（月） | 平成 25 年度第１回東北学院大学点検・評価委員会で第２期外部評価計画を承認 |
| 平成 25(2013)年　7月　1日（月） | 第１回外部評価委員会開催 |
| 平成 25(2013)年　7月～　9月 | アンケート調査、インタビュー調査内容検討 |
| 平成 25(2013)年 10 月　1日（月）<br>～18 日（金） | 在学生事前アンケート実施 |
| 平成 25(2013)年 12 月　3日（月） | 第２回外部評価委員会開催<br>インタビュー調査実施 |
| 平成 26(2014)年　1月～　2月 | 『平成 25 年度東北学院大学外部評価報告書』編集 |
| 平成 26(2014)年　3月　5日（水） | 第３回外部評価委員会開催<br>『平成 25 年度東北学院大学外部評価報告書』を大学に提出 |

## ２．平成 25 年度東北学院大学外部評価結果

### (1) 総評

貴大学は、創立以来、社会に対して有為な人材を輩出し、知的資源を還元し続けている。また、平成 22 年度に受審した大学認証評価（評価機関：公益財団法人大学基準協会）の結果を受け、高等教育機関として担うべき役割について、着実に改革・改善を推し進めている。このことは、第１期外部評価委員会において過去に実施した外部評価の結果からも明らかである。

第２期外部評価委員会では、第１期外部評価委員会からの引き継ぎ事項をもとに、「学生・卒業生等からの生の声を収集し、大学の長所の伸長及び短所の改善のための提言を行うこと」を活動方針として掲げ、大学との調整を重ね、在学生及び卒業生を対象としたインタビュー調査を主とする外部評価を実施した。

今回のインタビュー調査の形式は、調査対象者１名に対して、外部評価委員２～３名が対応するというものであり、受け答え側が萎縮するのではないかと懸念したが、在学生及び卒業生ともに明るく、率直に忌憚のない話をしていた。

人選にあたっては、在学生は事前アンケート対象者からの無作為抽出、卒業生は外部評価委員会事務局が大学各部署の協力を得て無作為に人選したこともあり、ある程度の多様性を確保できていたものと思われる。しかしながら、今回の調査対象者は図らずも「よい学生、頑張る卒業生」ばかりであった。なお、今回は該当しなかったものの、調査対象者によっては大学の意を汲んだ回答を行う可能性があるため、今後とも人選には十分注意することが望ましい。

全体的な印象として、在学生と卒業生のいずれについても、東北学院大学を評価する観点にほとんど違いはなかったように感じた。加えて、インタビューそのものの時間が短いこともあり、表面的な回答しか得られず、いわゆる本音を引き出すまでには至らなかった。

また、在学生・卒業生ともに東北学院大学の教育・学生生活についての満足度が高く、大学を高く評価しているが、それが出身校や社会一般に認識されていないのではないか、ということまでは分析できなかった。今後、同様の手法で評価を検討する際は、そうしたことも視野に入れる必要がある。

調査対象者は、東北学院大学が置かれている現在位置について、総じて適切に把握していたと思われる。また、ほとんどの調査対象者が東北学院大学に対して極めて好意的であった。大学からの協力依頼を快諾してくれたことからも分かるが、大学に対してプライドを持ち、大学がさらに良い方向に発展してくれることを願う優秀な在学生及び卒業生であると感じた。外部評価委員会としても学ぶことが多かったといえる。

ほとんどの調査対象者から高い評価を受けていた事項としては、演習担当教員からの

熱心な指導があげられる。在学生及び卒業生は、人格形成から就職指導に至るまで広範にわたって指導がなされており、また教員と学生との間で良好な関係を構築していることは高く評価できる。また、学生会活動やサークル活動も活発に行うなど、総じて学生生活を楽しんでいる学生が多く、東北学院大学の明るい雰囲気を表しているといえる。

大学に対する不満については、一部の施設・設備の老朽化や泉キャンパスまでの通学が不便であることなど、ハード面に関する内容が多かったといえる。現在大学で進められている将来のキャンパス統合も重要ではあるが、いまの在学生に対する環境の整備として、早急に検討を進めることが望ましい。

最後に、このインタビュー調査を主とした評価手法は、東北学院大学における外部評価として初の試みであったが、結果的に大変有効な方法であったと考えられる。今後は、対象者の意見を引き出すような一歩踏み込んだ質問項目の設定やインタビューの時間を長くするなど、評価手法の改善について双方で検討したい。

なお、今回の外部評価における主たる評価事項以外の点で、このほかに貴大学で改革・改善が行われているさまざまな事項についても、自己点検・評価を継続的に行い、さらなる発展に努めることを期待する。

## (2) 東北学院大学の教育における優れた点

全体として、「自由」な大学のあり方が在学生・卒業生に大学への満足感を与えていると思われる。学生数が多く、さまざまな人と出会うことができ、雰囲気が明るいことがその要因といえよう。

多くの調査対象者の受け答えから、多くの教員が熱意を持って教育にあたっている様子が見受けられた。在学生・卒業生のいずれからも、ゼミなどの担当教員から公私にわたって熱心な指導を受けており、非常に充実しているという意見があった。良い教員との出会いやゼミ教育等が学生の将来像の構築や人格形成に効果的な影響を与えている。今後もこれらを軸とした教育システムを継続し、さらに充実していくことが望ましい。なお、こういった熱心な指導の弊害なのか、就職指導まで担当教員に頼ってしまっているような面も見られた。この点は検討の余地があるかもしれない。

そのほかに、数名から、１～２年次の教養教育科目が幅広い知識を獲得する上で大変有効であったという意見があった。また、入学時のオリエンテーション行事も好評であった。

漠然とした内容でも、学びたい分野や目指したい職業などといった目的・目標を持った学生にとっては、実際の環境等に左右されるとはいえ、本人にとって「充実した学生生活だった」と評価できる教育を受けることのできる大学といえる。

## (3) 東北学院大学の教育における改善を要する点

### ①教育内容・方法について

今回のインタビュー調査からは、各学科の特色は見出すことができなかった。学科あるいは学部ごとにもっと明確な特色が持った教育が必要だろう。調査対象者からは、教養教育科目でネイティブスピーカー（母国語話者）による授業が開講されていたが、専門教育科目にはそれが無いことが残念であるという意見や、１～２年生から実務家の話を聞く機会がほしかったなどといった意見があった。こういった意見からうかがえる限り、「専門的知識をしっかり身につけさせる教育」が不足しているように思われる。

また、教育を直接批判するような意見はなかったが、特にいわゆる文系学部は「厳しく鍛える教育ではない」という印象を受けた。

ある文系学部の調査対象者は、入学後に学びたい分野などを探そうとしていたが、１～２年次はサークル活動やアルバイトなどが学生生活の中心になったため、取りやすい単位だけを取り、大学卒業という資格を取るだけになっていると言っていた。専門的なことは何も身についておらず、就職もそれを必要としないものになってしまうことを懸念していた。これは非常にもったいないことである。ある卒業生は、学生時代にもっとしっかり勉強しておけばよかったと口にしていた。

厳しく鍛える教育ではないことが、東北学院大学の良さにつながっているという側面もある。しかし、大学という教育の最高機関として、あらためて専門教育についても教育内容・方法等について検討していただきたい。

あわせて、１～２年生の講義では、学問を学ぶ意義や実務者の話など、目的や目標を持たずに入学した学生や、学問に関心を持たない学生を引きつけるような魅力ある内容にすることも求められる。

さらに、１～２年生からの体系的なキャリア教育の実施やその充実も必要であろう。工学部ではその性格上、比較的有効に行われているように見受けられるが、それ以外の学部については、就職指導も含めて、実質的にはゼミの担当教員を中心として行われているように感じた。現在、進学校と呼ばれる高等学校では、１年生から３年生までさまざまなキャリア教育・進路指導を行っている。それでも、３年生になってもどこに進学し、何を目指せばよいのか分からないという生徒もいる。その場合、担任は、多様性を持つ学部・学科に入学し、大学での勉強の中で具体的にやりたい職業を絞り込むことも良いと指導することがある。そういう学生も入学してきていることを踏まえながら、教育内容・方法を検討していただきたい。

### ②教育環境について

次に、教育環境について、授業中の学生の態度・意欲の差や大人数の講義での私語、試験の不正等について問題があるという意見が複数あった。大学での勉学のモチベーションが低い学生がいることに対して、それを許容するキャンパスの雰囲気が不満であるということになるのではないか。こうした学生が存在する背景については、調査対象者間でも意見が分かれた。一般入学の学生に対して、推薦入学の学生は意欲が概して低いとする意見がある一方、一般入試で第一希望ではなく合格した不本意入学の学生の意欲の低さを指

摘する者もいた。
　その他の要望としては、やはり建物や施設、研究設備の老朽化に関する意見が多かった。教室の壁が薄く、廊下の声が響くといったものや、泉キャンパスの図書館や大学生協の閉館時間をもう少し遅くしてほしいという意見があった。改善にあたっては、時間や費用を要するものではあるが、できる限り早急に対応することが望ましい。

## (4) その他所見等

①礼拝・建学の精神について

礼拝について、卒業生から、在学中はそれほど感じなかったが、社会に出てから大学生活を振り返ってみるとその経験が有意義であったという意見があった。

礼拝出席を義務的なものと考えている学生と、悩みを抱え、答えを求めて出席する学生とでは、牧師の説教から受け取るものが異なり、評価も当然分かれる。しかしながら、礼拝そのものはキリスト教の価値観に触れるきっかけとして十分意味があることであり、またそれがひいては「建学の精神」を理解することにつながる。

関連して、あるグループで東北学院の「建学の精神」について質問したところ、その存在を知っていた調査対象者は４名中２名だったが、その内容まで答えることができた者はいなかった。私立大学における「建学の精神」は大変重要なものである。調査した人数は少ないものの、在学生及び卒業生から認知されていないということは重大な問題といえる。このことについても、あらためて大学として検討していただきたい。

②就職について

地元企業に OB・OG が多数就職しており、地元への就職が非常に有利であったり、卒業生がいる企業とのコミュニケーションがとりやすかったりするという意見があった。また、ある卒業生は、職場での OB・OG による東北学院のネットワーク（TG 会）が大変充実しているということを卒業してから実感したという。当該卒業生は、さまざまな面でこうしたネットワークに助けられていることに感謝していた。今後もこのネットワークをさらに継続・充実させていただきたい。

一方で、東北学院大学から東京方面に就職する人が少なく、また大学からの案内も少なかったという意見があった。ある卒業生からは、「地元企業を中心とした会社説明会や就職は、それはそれで良いことだが、首都圏で全国を相手に仕事をするスキルを持った人材を多く輩出することが東北学院大学のブランド力を高めることになるのではないか。しっかり勉強できる時間は学生時代しかないということから考えると、単位取得が易しすぎる」という意見もあった。

③施設・設備について

土樋キャンパスについて、仙台市の中心部に位置していることから他キャンパスと比べて交通の便などは良いことや、食堂が混まないことなどが評価された。しかし、建物の老朽化や階段の多さ、洋式トイレの少なさなど、いくつかの緊急性が高い意見があげられている。

多賀城キャンパスについては、学食や通学に関する不満はなかった。一方で、工学部の卒業生は実験器具や測定装置が在学当時古かったことについて不満を口にしていた。しかし、大学院と企業とが連携し、その企業の施設・設備を研究に活用させてもらえたため、装置の不足面を補うことができたと語っていた。

泉キャンパスについては、通学やキャンパス間移動が不便であるという意見が多数あった。

これに関連して、事前アンケートでは、現在進められているキャンパス統合に関する質問項目を設けている。その調査結果では、「大いに賛成する」「どちらかといえば賛成する」の合計で約 70%の回答を得ていた。しかし、インタビュー調査においては、単に統合すればよいわけではないという回答もあり、個人の通学経路等の事情もあるなど、賛否両論となった。一方で、文系学部の学生は２年生まで泉キャンパスで学び、３年生になったら土樋キャンパスで学ぶようになることを一つのステータスと感じているという意見があったことも事実である。

いずれにしても、キャンパスの統合によるメリットを学生や受験生、保護者などに十分に説明し、理解してもらうことが重要である。

④学生・学生生活について

学生生活の充実度について、事前アンケートでは、「充実している」「どちらかといえば充実している」の合計で約 80%を超える回答を得ていた。

インタビュー調査においても、講義やアルバイト、サークル活動や学生会活動など時間を有意義に活用しているように感じた。１万人を超える学生数を誇ることで、人との関わりが豊富で、明るい人が多いということが要因としてあげられている。こういった体験や経験から得たコミュニケーション能力や人間関係を構築する力は、今後の人生の財産になる。また、就職活動での強みにもなるだろう。

しかし、中には物足りなさを感じている学生もいることは確かである。大学に遊びに来ているような学生を見て不快に思っているという意見もあった。

⑤課外活動について

東北学院大学で特によかったことは何かという質問をした際、ほとんどの調査対象者が、サークル活動やアルバイトなどで充実していることという回答をしていた。

ある調査対象者からは、大学祭実行委員会の企画に携わり、大学職員から親切な指導も得て課外活動に取り組めたことで、コミュニケーション能力がついたなどの話も聞くことができた。課外活動を通した学生の成長を促す環境は備わっていると思われる。また、ある在学生は、最初はしぶしぶ入学したが、ESS サークルに入り他大学の学生との交流も盛んになったことで、今では充実した学生生活を送っていると口にしていた。

⑥事務職員・事務組織について

事務職員の窓口対応について、事前アンケートでは、「学生生活支援」などのほかの項目に比べて最も点数が低かった。また、インタビュー調査においても、特に泉キャンパスの事務職員に対する意見がいくつかあげられた。中には学生側に問題がある事例もあったが、大学と学生を結ぶ窓口として、よりよい対応を心がけていただきたい。

学生数が多い大規模大学では、学生が行き交うキャンパス空間が醸し出す雰囲気は大学にとって大変重要であると思われる。そのためにも、社会人として巣立っていく学生にとって、窓口業務の職員の態度は本来、模範となるべきものであり、改善対応が迫られている。総じて、勉学や学習の意欲を高めるキャンパスづくり（Hidden Curriculum）に何らかの工夫が必要と思われる。

⑦広報・情報公開について

キャンパス内の掲示板がなかなか更新されず、情報がうまく伝わらないという意見があった。事前アンケートでも同様の意見があげられており、掲示板の整理や効果的な運用が求められる。現在、県内のいくつかの高校や他大学でも運用されている情報提供用のディスプレイ等の設置なども検討していただきたい。

情報公開という点では、大学はもっと活動を PR すべきであるという意見があった。自らの教育・研究活動を過小評価せず、より大々的にさまざまな手法で広報を行うことが重要である。地域とタイアップした催しも有効であろう。また、産学連携という点で、工学部に限らず、その拡大にさらに力を入れて、マスコミ等への発信を拡充することで、大学のブランドイメージの向上にもつなげていただきたい。

⑧その他

あるグループで「高校生の後輩等に東北学院の受験を積極的に勧めたいか」と聞いたところ、４名中３名から「ぜひ勧めたい」という回答を得た。「特に勧めようと思わない」と答えた１名（東北学院大学卒業後、資格取得のため東北学院大学大学院に入学）は、その理由として「誰でも入れる大学だと思われている」ことをあげた。ここに東北学院大学の課題が集約されているといえよう。

東北学院大学に入学する動機として、東北学院大学のブランド力に魅かれて受験した学生が大半であるが、そうではない学生や意欲のない学生が存在することも事実である。そうした学生へのケアや、東北学院大学の学生としての自信とプライドを持たせてほしいという意見もあった。大学として、このような声にぜひ対応すべきであろう。

# 平成25年度東北学院大学外部評価
# 在学生アンケート調査結果

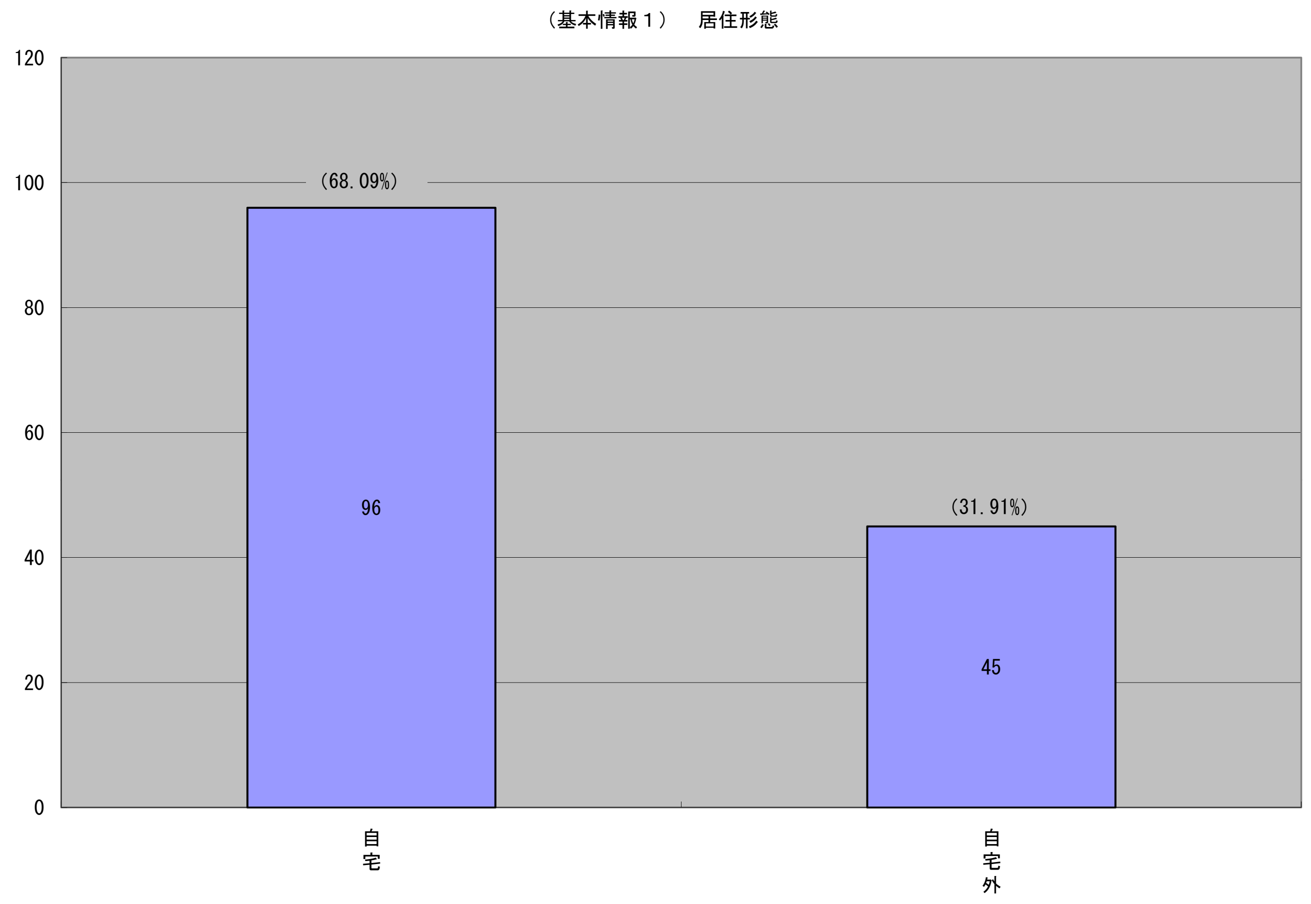
〇調査期間　：　平成25年10月２日（水）～18日（金）
〇調査対象　：　在籍中の全学部学科の３年生150名
〇回 収 率　：　94.0%（150名中141名、内男子71名、女子70名）

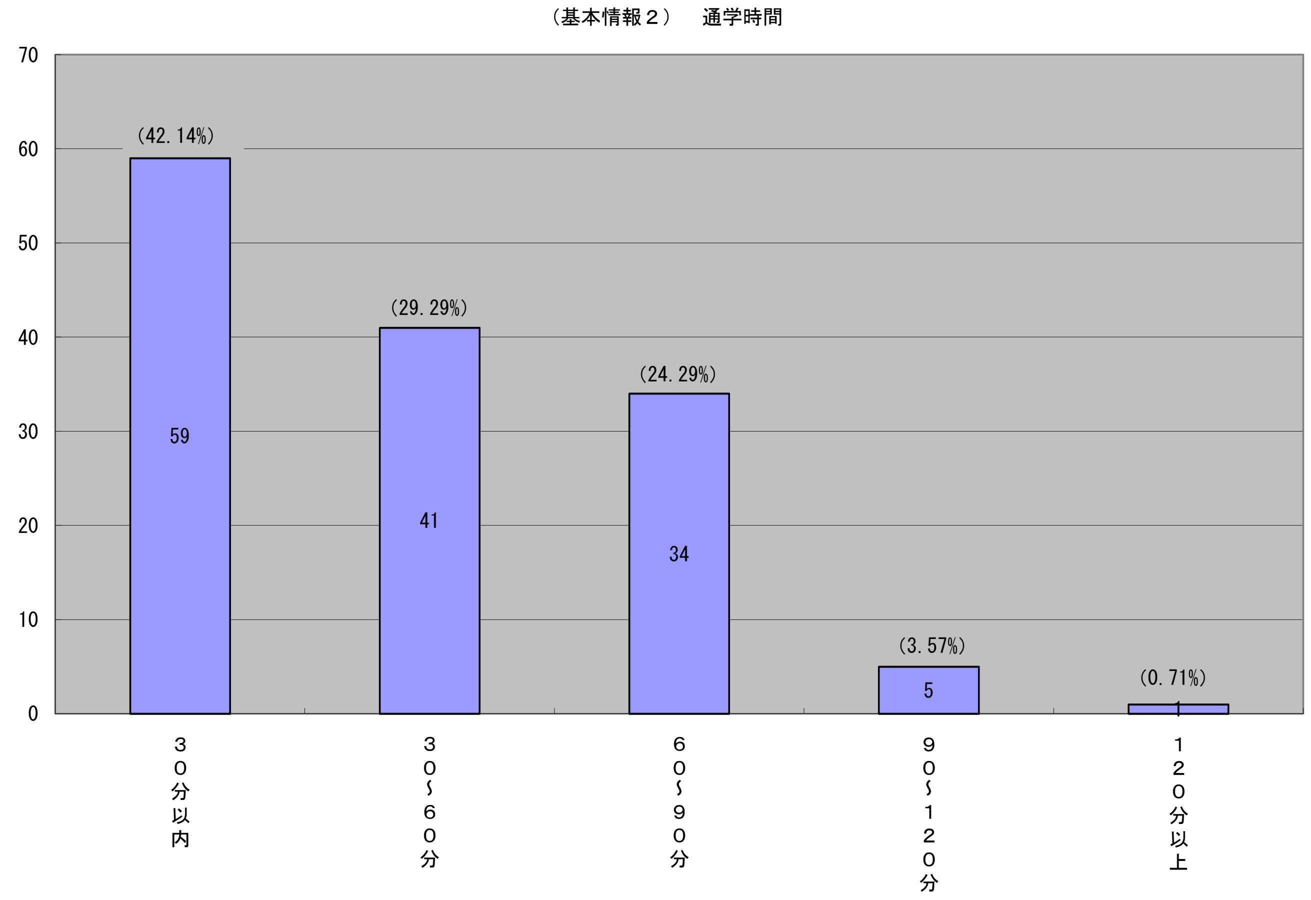


| 設問・頁 | | |
|---|---|---|
| | 基本情報（居住形態、通学時間） | … 12 |
| 1 | どの入試で入学しましたか。 | … 14 |
| 2 | 奨学金制度を利用していますか。 | … 14 |
| 3 | 次のようなクラブ・サークル活動を行っていますか。 | … 15 |
| 4 | 現在、アルバイトをしていますか。 | … 15 |
| 5 | １週間の平均勤務時間を記入してください。 | … 16 |
| 6 | 大学の授業にどの程度出席していますか。 | … 17 |
| 7 | あなたが本学を受験した理由は何ですか。 | … 17 |
| 8 | あなたが本学を受験したとき、第一志望はどこでしたか。 | … 18 |
| 9 | あなたは、現在、学生生活が充実していると感じますか。 | … 18 |
| 10 | 現在、あなたが大学生活で特に力を入れていることは何ですか。 | … 19 |
| 11 | では、入学したとき、あなたが大学生活で特に力を入れたいと思っていたことは何ですか。 | … 19 |
| 12 | 入学したときに力を入れたいと思っていたことは、どの程度達成できましたか。 | … 20 |
| 13 | 東北学院大学に対する満足度について、以下の各項目を４段階で答えてください。 | … 20 |
| 14 | もし、土樋キャンパスを中心とした仙台市内中心部に３つのキャンパスを統合するという案が出されたとして、あなたは賛成ですか、反対ですか。【全体・キャンパス別】 | … 21 |
| 15 | あなたは、現在、東北学院大学に入学して満足していますか。 | … 22 |
| 16 | あなたは、入学したとき、東北学院大学に満足していましたか。 | … 22 |
| 17 | あなたは、家族や後輩に東北学院大学への入学を相談されたとき、入学を勧めますか。 | … 23 |
| 18 | あなたは、大学卒業後の進路について、現在、はっきりとした考えをもっていますか。 | … 23 |
| 19 | 自分の職業や仕事を決める上で、現在、どんなことを重視していますか。 | … 24 |
| 20 | あなたは、この地域における東北学院大学の社会的な評価は高いと思いますか。 | … 24 |
| | 全体を通して、東北学院大学にその他要望等があれば、自由に記入してください。 | … 25 |

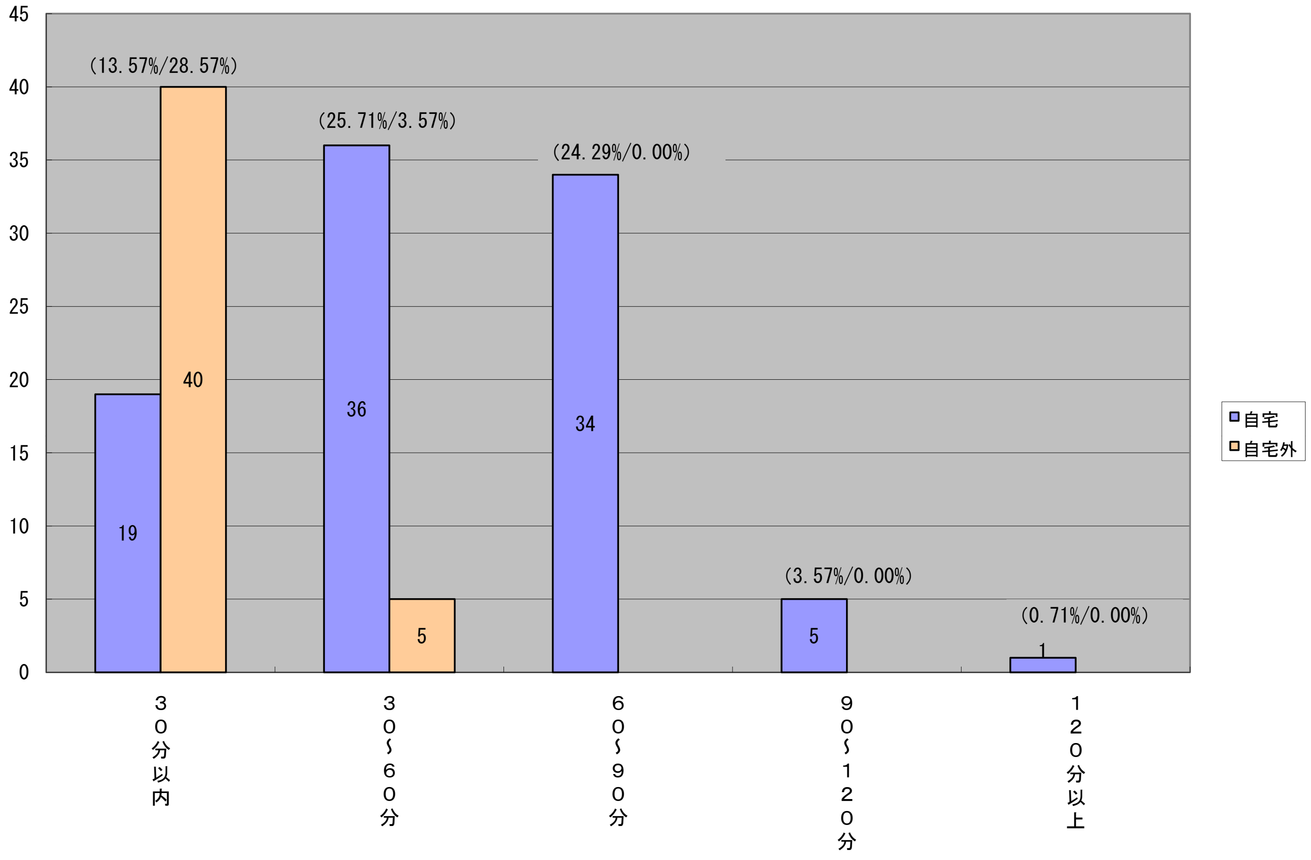


※それぞれの回答から無回答は除く。

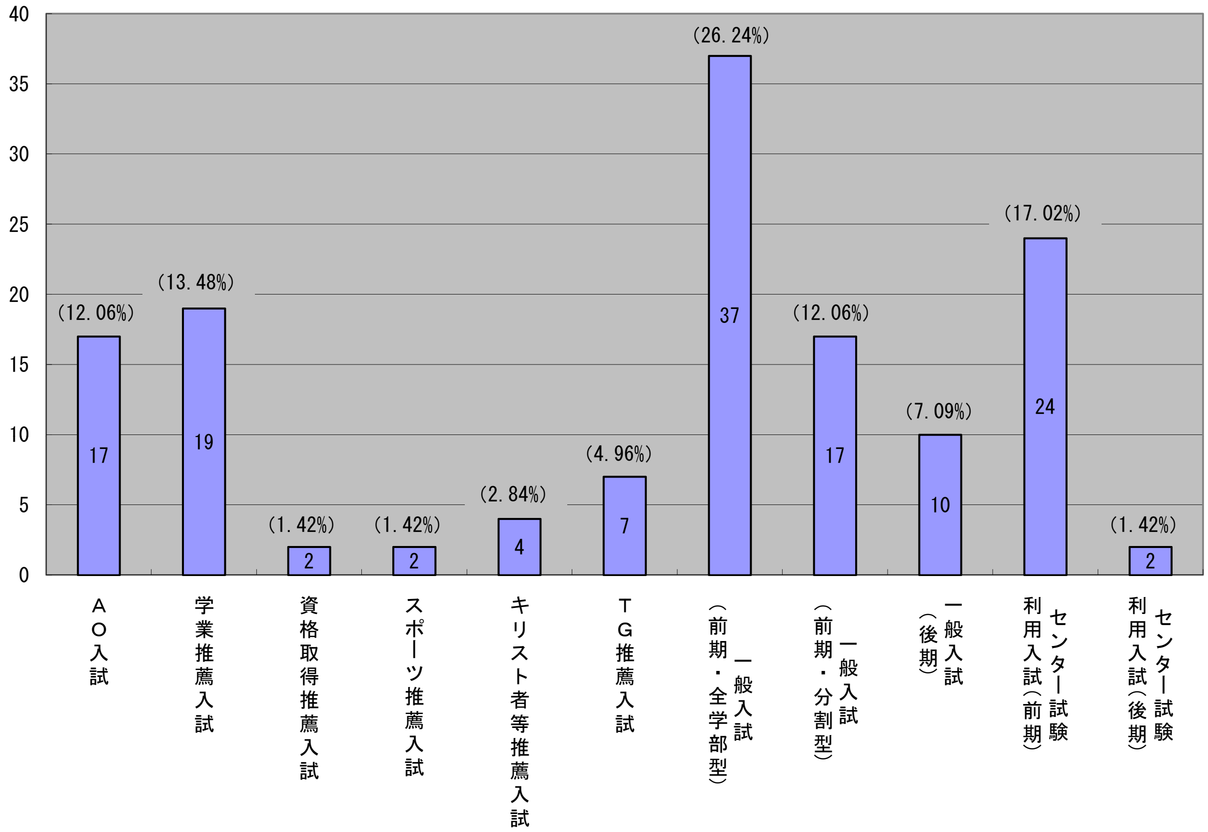

（基本情報１）　居住形態
120
100
80
60
40
20
0
(68.09%)
96
(31.91%)
45
自宅
自宅外


（基本情報２）　通学時間
70
60
50
40
30
20
10
0
(42.14%)
59
(29.29%)
41
(24.29%)
34
(3.57%)
5
(0.71%)
1
３０分以内
３０～６０分
６０～９０分
９０～１２０分
１２０分以上

（基本情報３）　通学時間と居住形態の相関

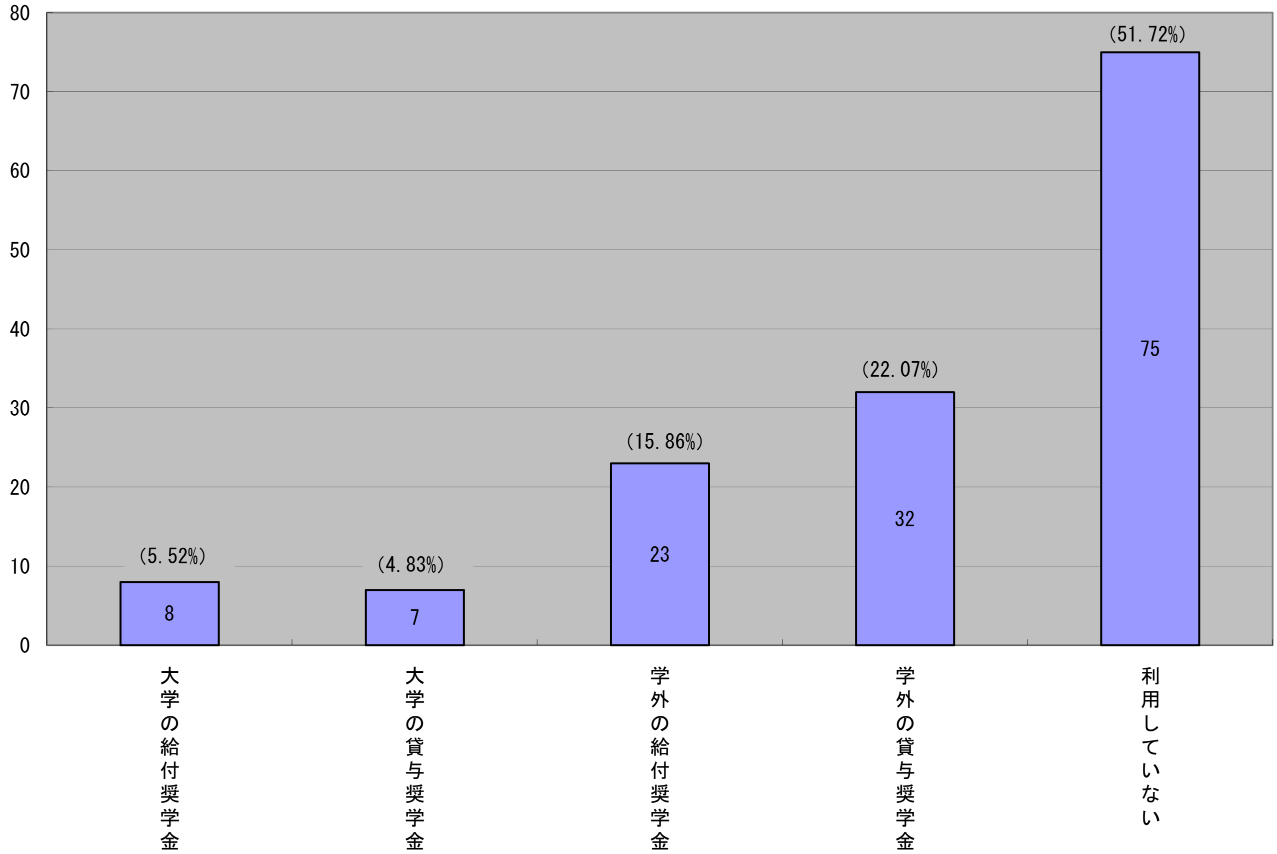


(1)　どの入試で入学しましたか。

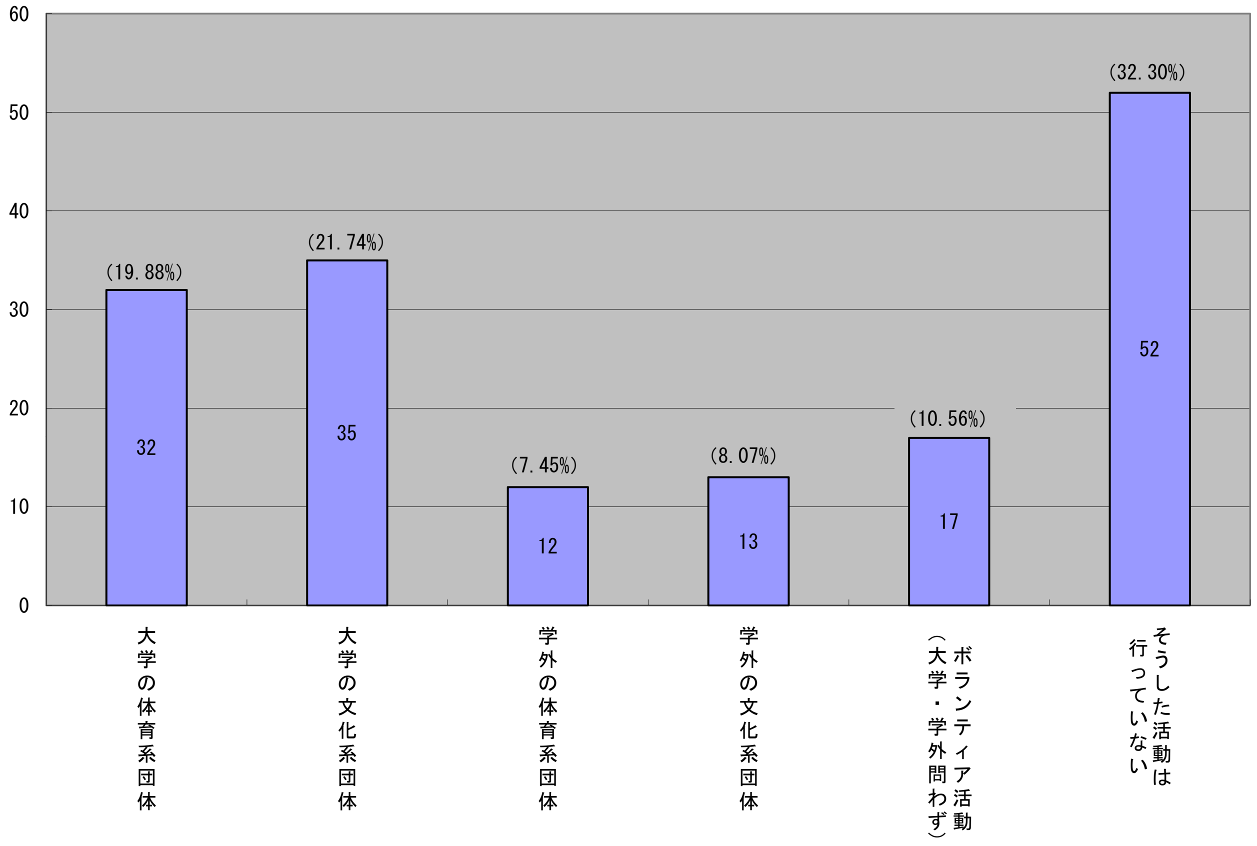



［備考］帰国子女特別入試、社会人特別入試、外国人留学生特別入試は該当者なし

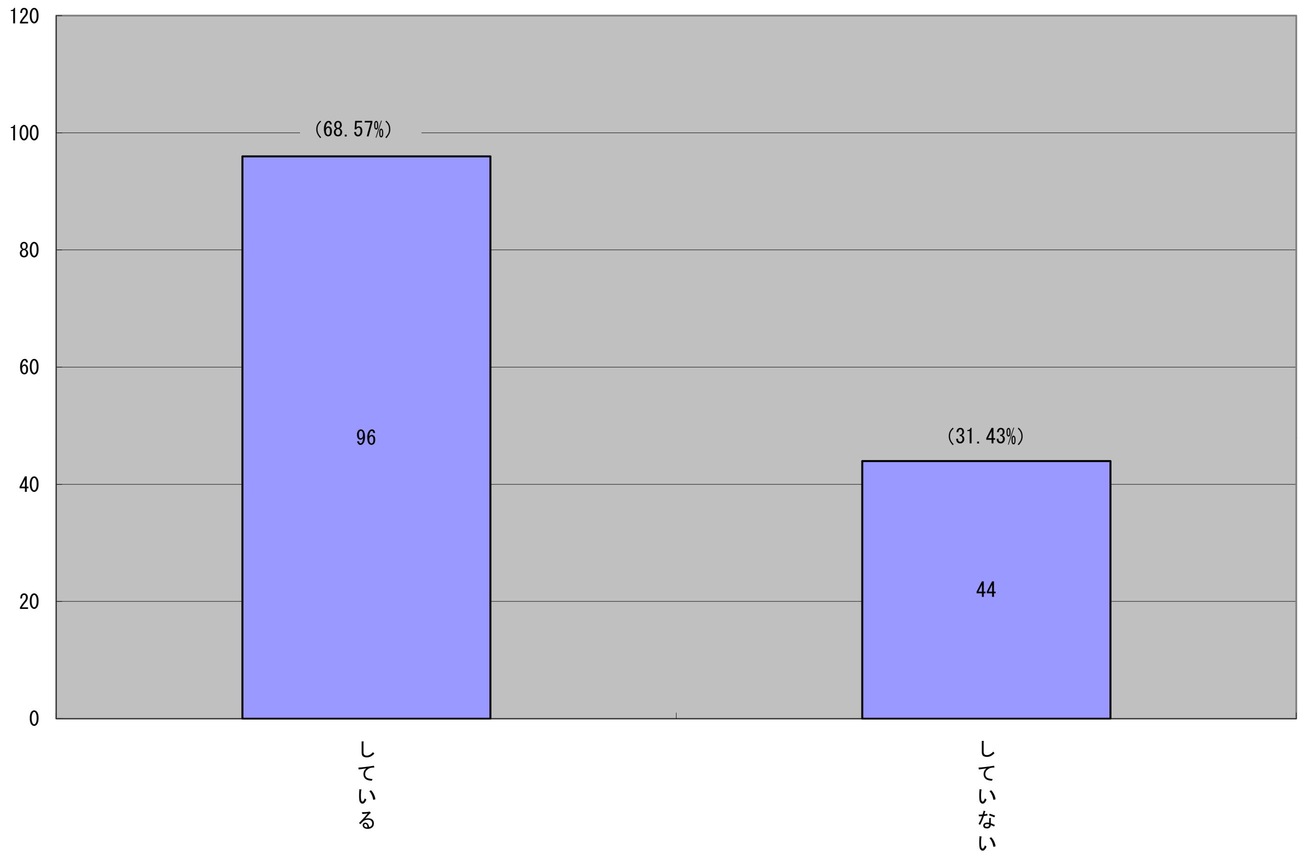
(2)　奨学金制度を利用していますか。（複数回答可）



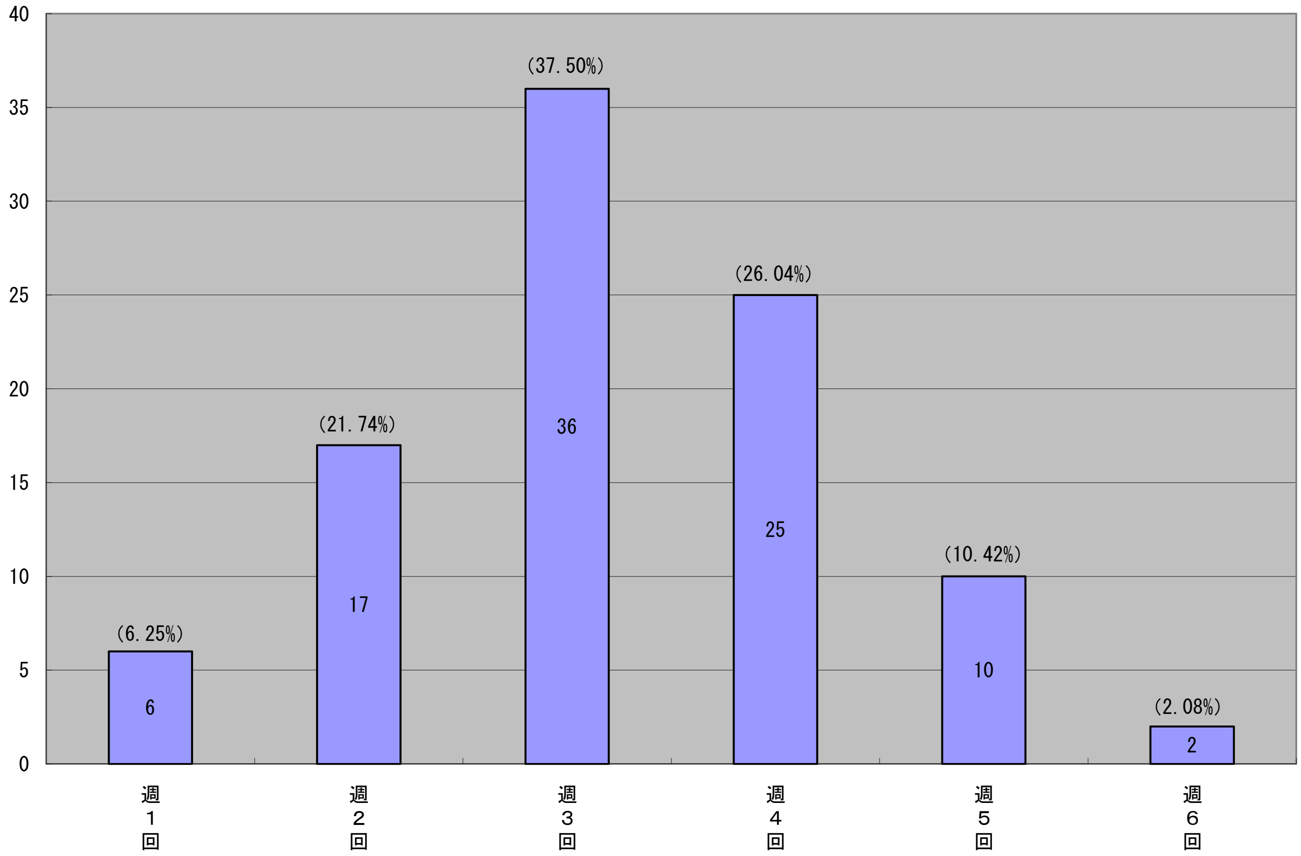
(3)　次のようなクラブ・サークル活動を行っていますか。（複数回答可）



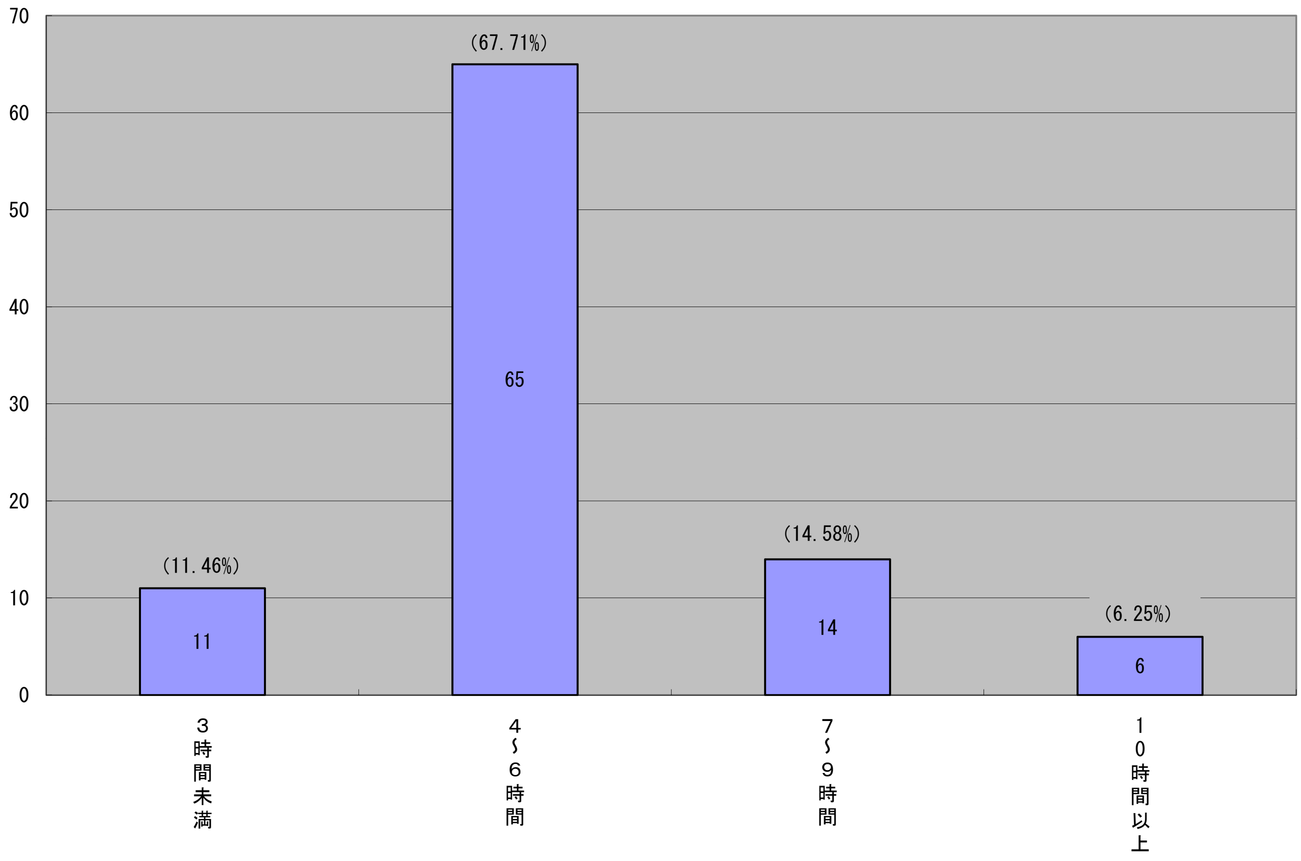

(4)　現在、アルバイトをしていますか。



(5-1) １週間あたりの平均勤務日数（夏休み等の長期休暇期間除く）

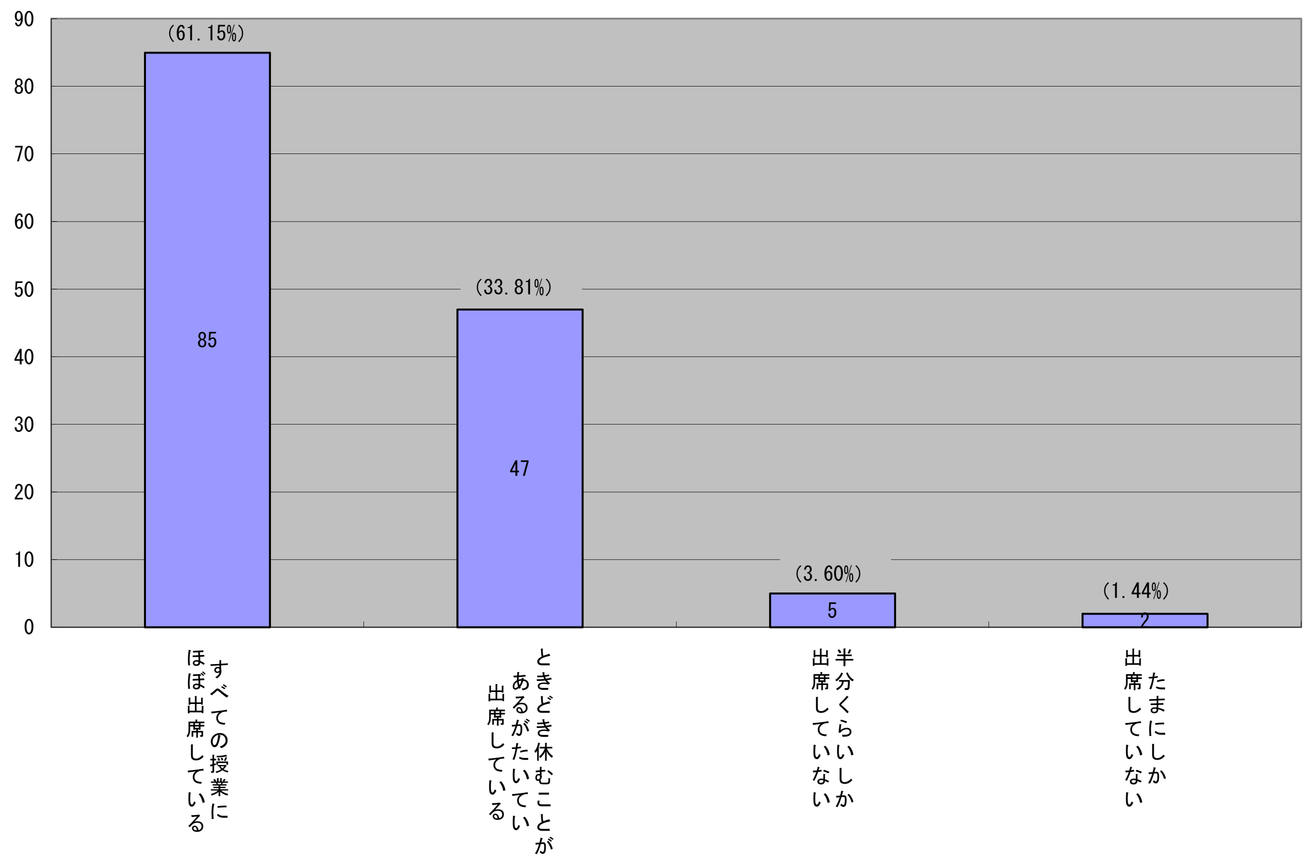



(5-2) １日あたりの平均勤務時間

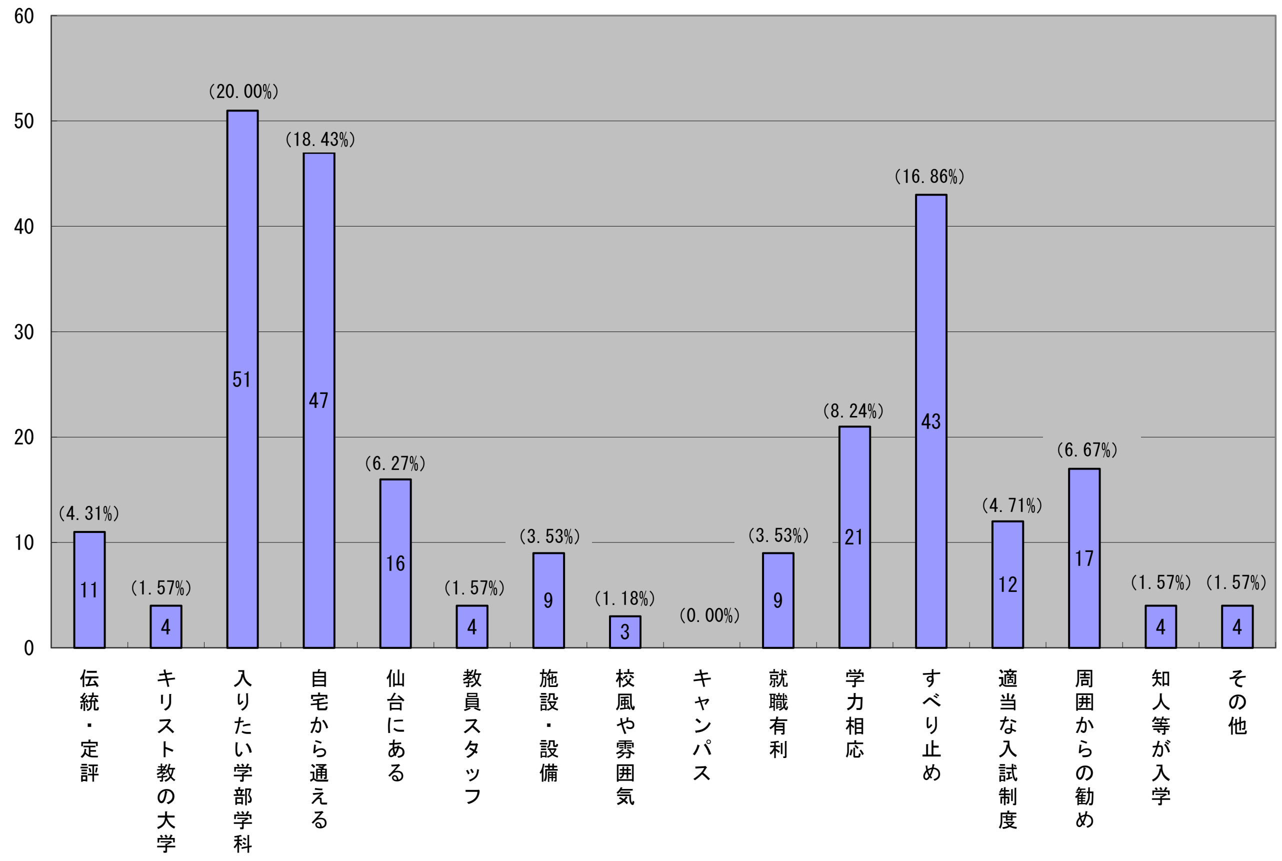



［注］「10時間以上」と回答した学生は「１週間の合計勤務時間」と誤解したと思われる。

(6)　大学の授業にどの程度出席していますか。

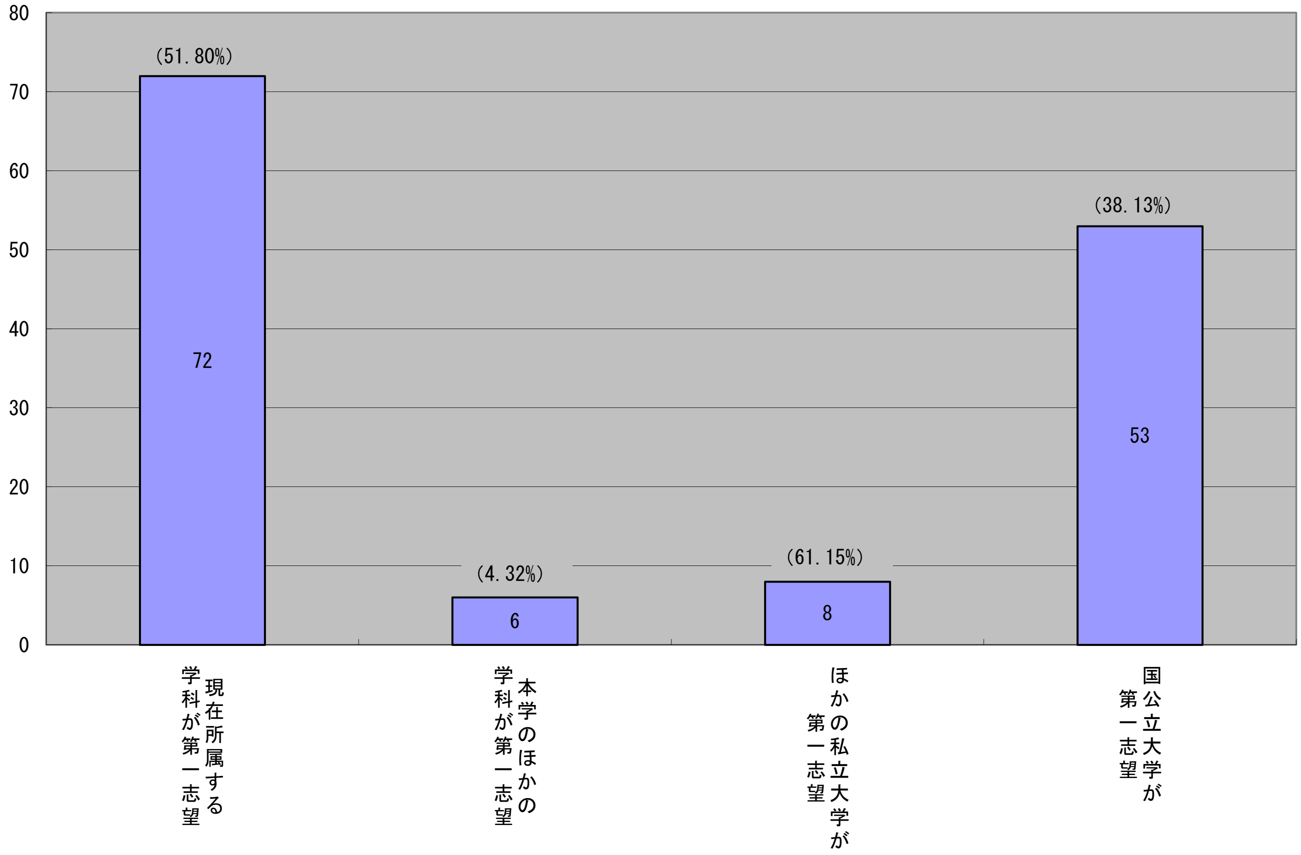



(7)　あなたが本学を受験した理由は何ですか。（2つ以内）

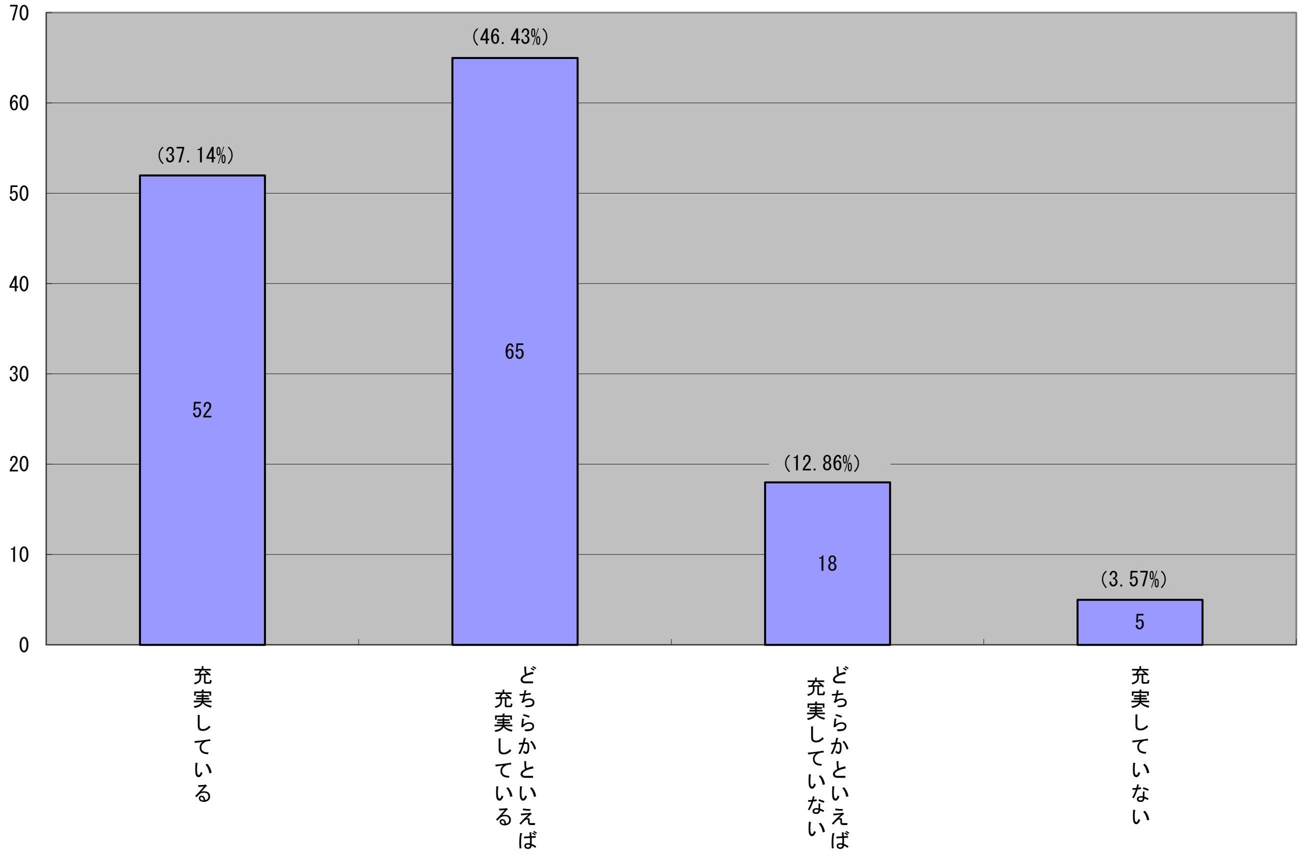



［その他］教員資格を取得したかったから（教養学部言語文化学科）

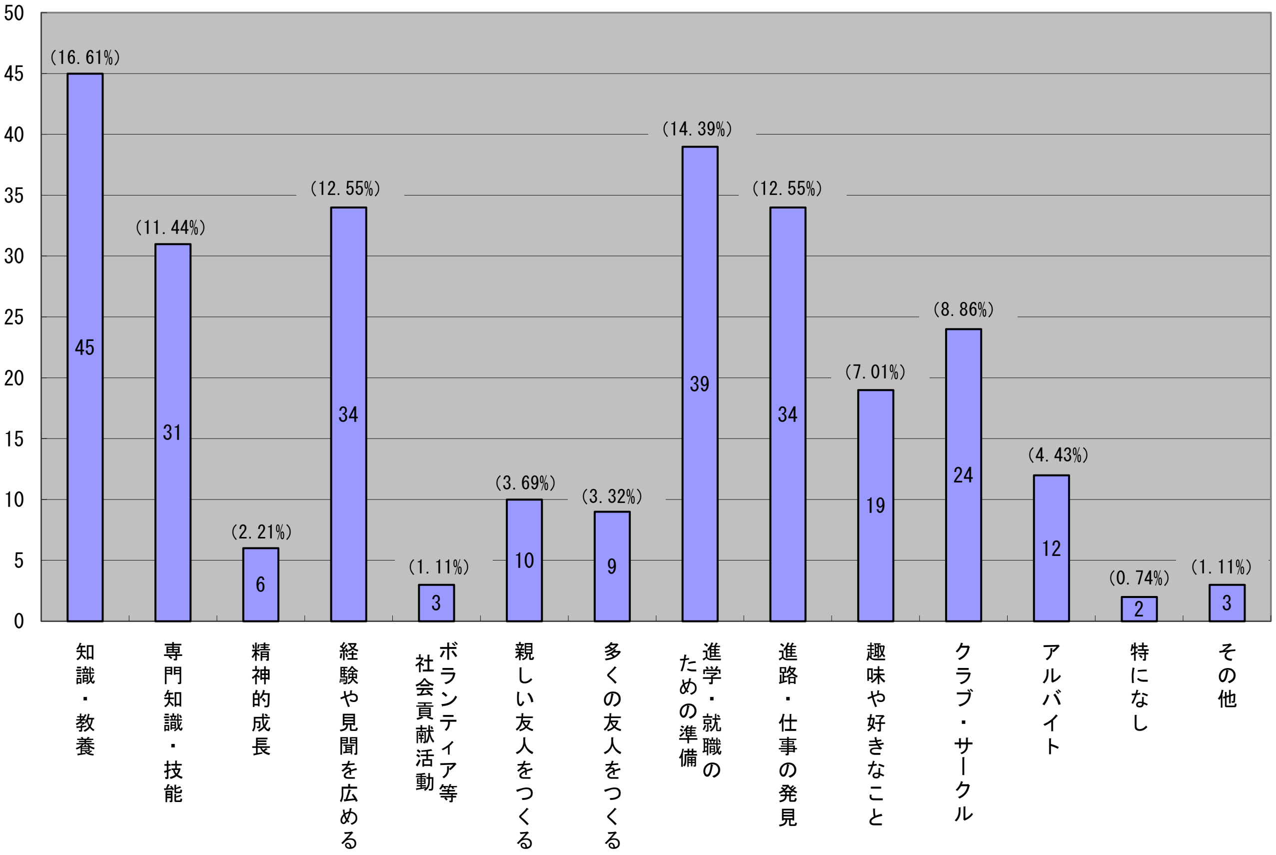
(8)　あなたが本学を受験したとき、第一志望はどこでしたか。




(9)　あなたは、現在、学生生活が充実していると感じますか。

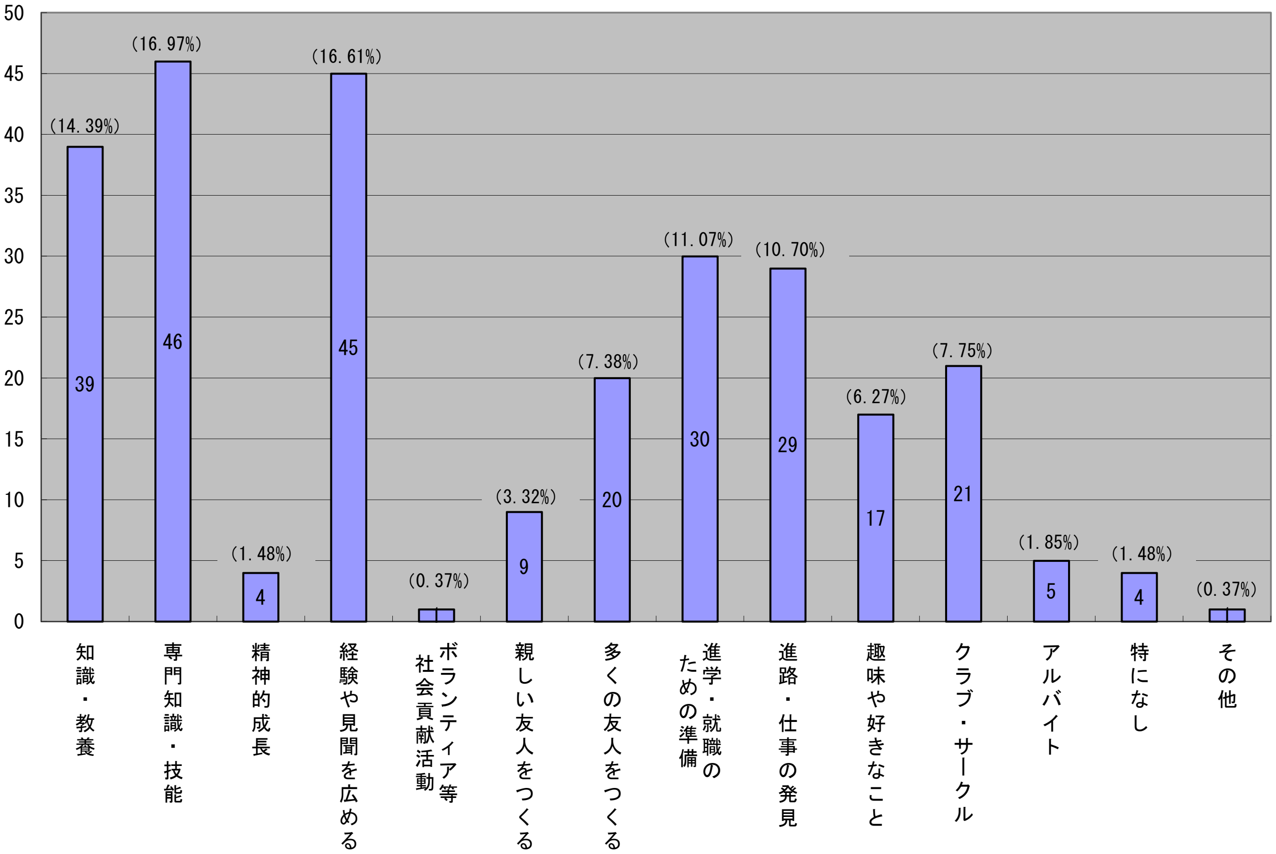


(10)　現在、あなたが大学生活で特に力を入れていることは何ですか。（2つ以内）

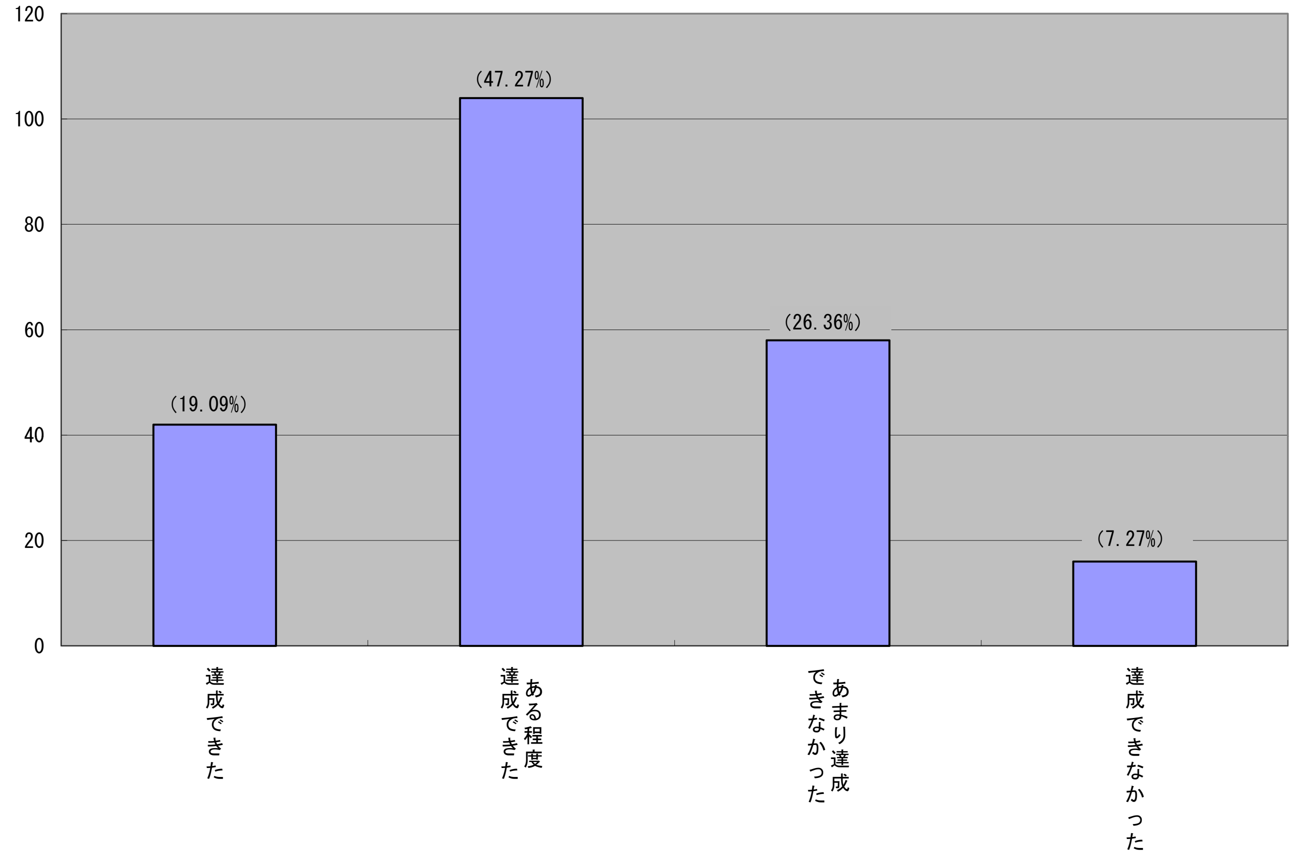



［その他］実習での文化財レスキュー活動（文学部歴史学科）、ゼミ活動（経済学部経済学科）

(11)　入学したとき、あなたが大学生活で特に力を入れたいと思っていたことは何ですか。（2つ以内）

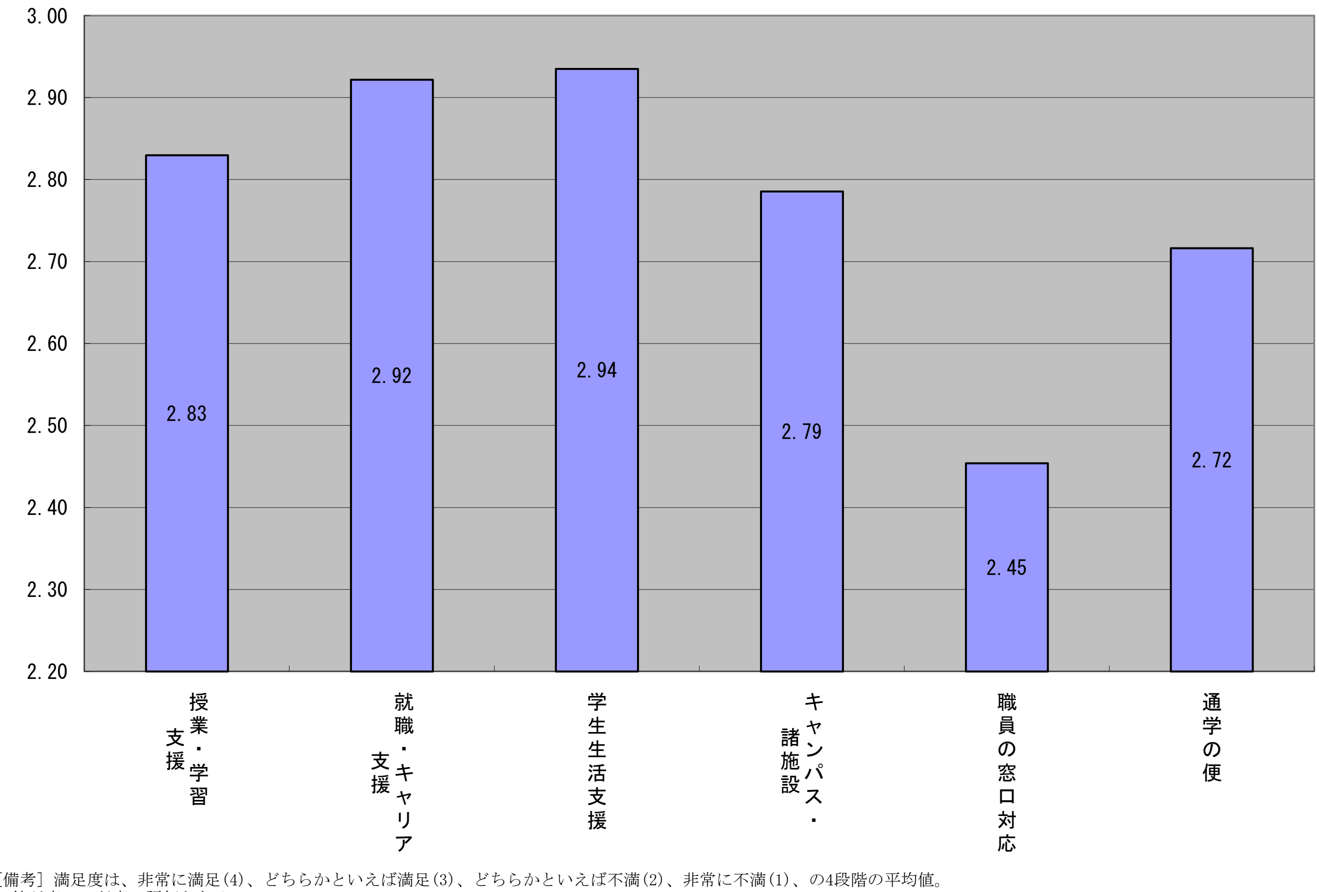


(12)　入学したときに力を入れたいと思っていたことは、どの程度達成できましたか。



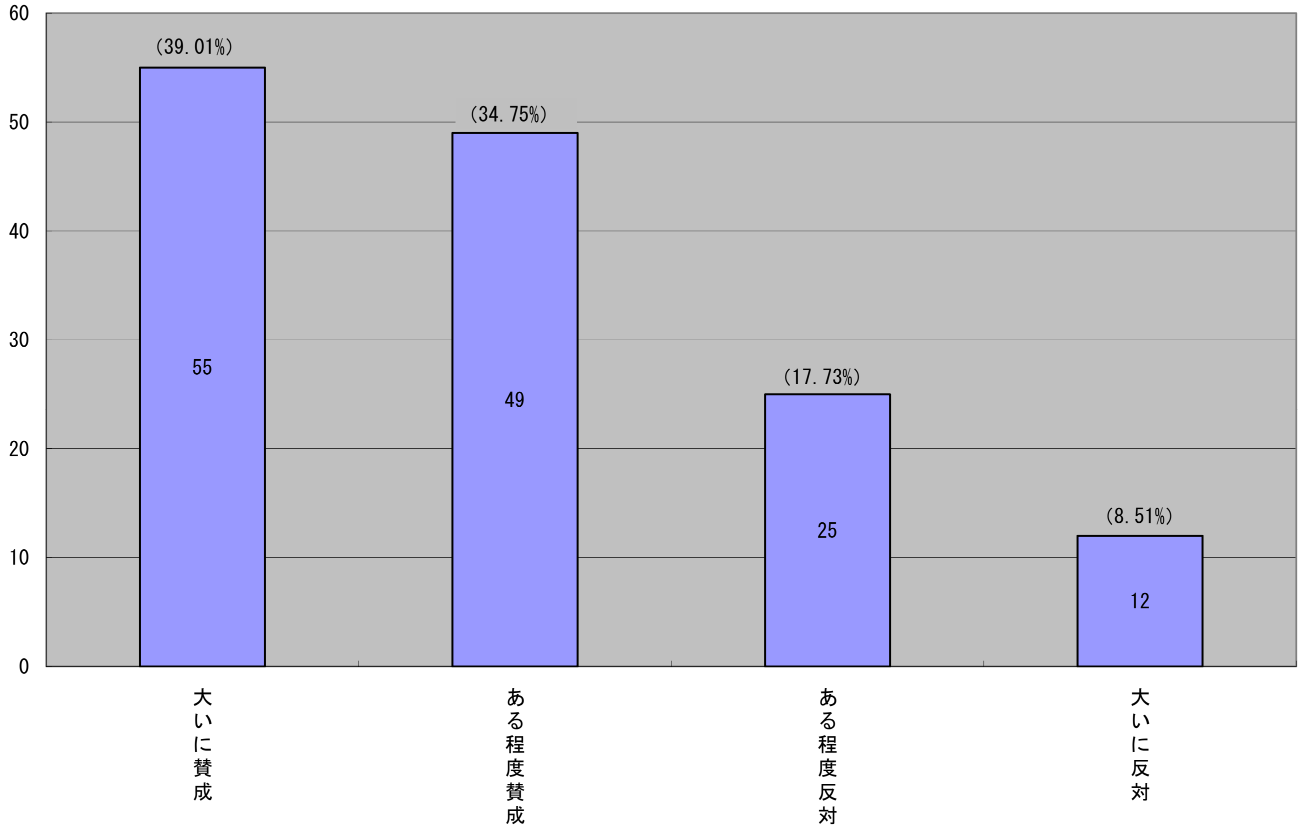

[備考] 本設問は、回答者が(11)で選んだ回答（複数回答可）について、それぞれの達成度を調査するもの。
個々の回答により達成状況が異なるため、本表では単純な割合を示す。

(13)　東北学院大学に対する満足度について、以下の各項目を４段階で答えてください。

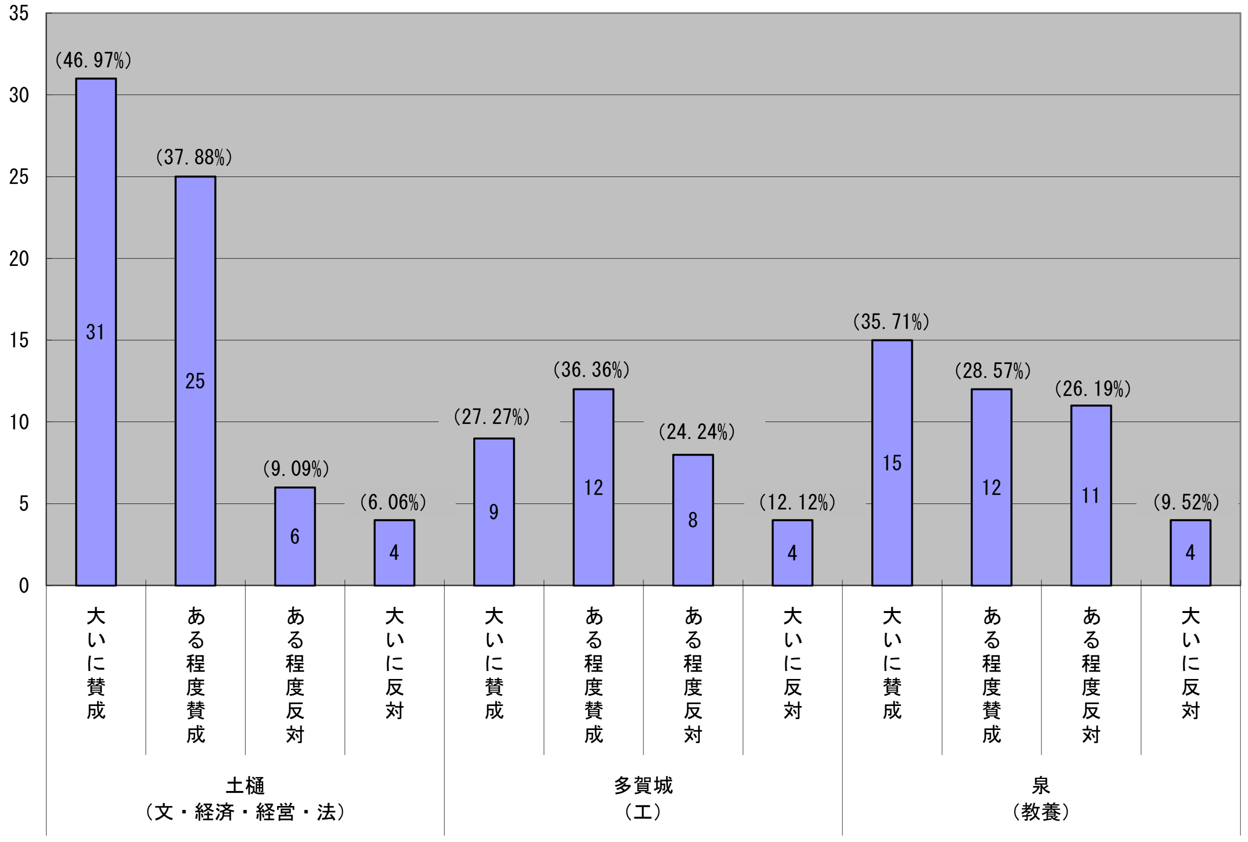



[備考] 満足度は、非常に満足(4)、どちらかといえば満足(3)、どちらかといえば不満(2)、非常に不満(1)、の4段階の平均値。
値が高いほど高い評価となる。

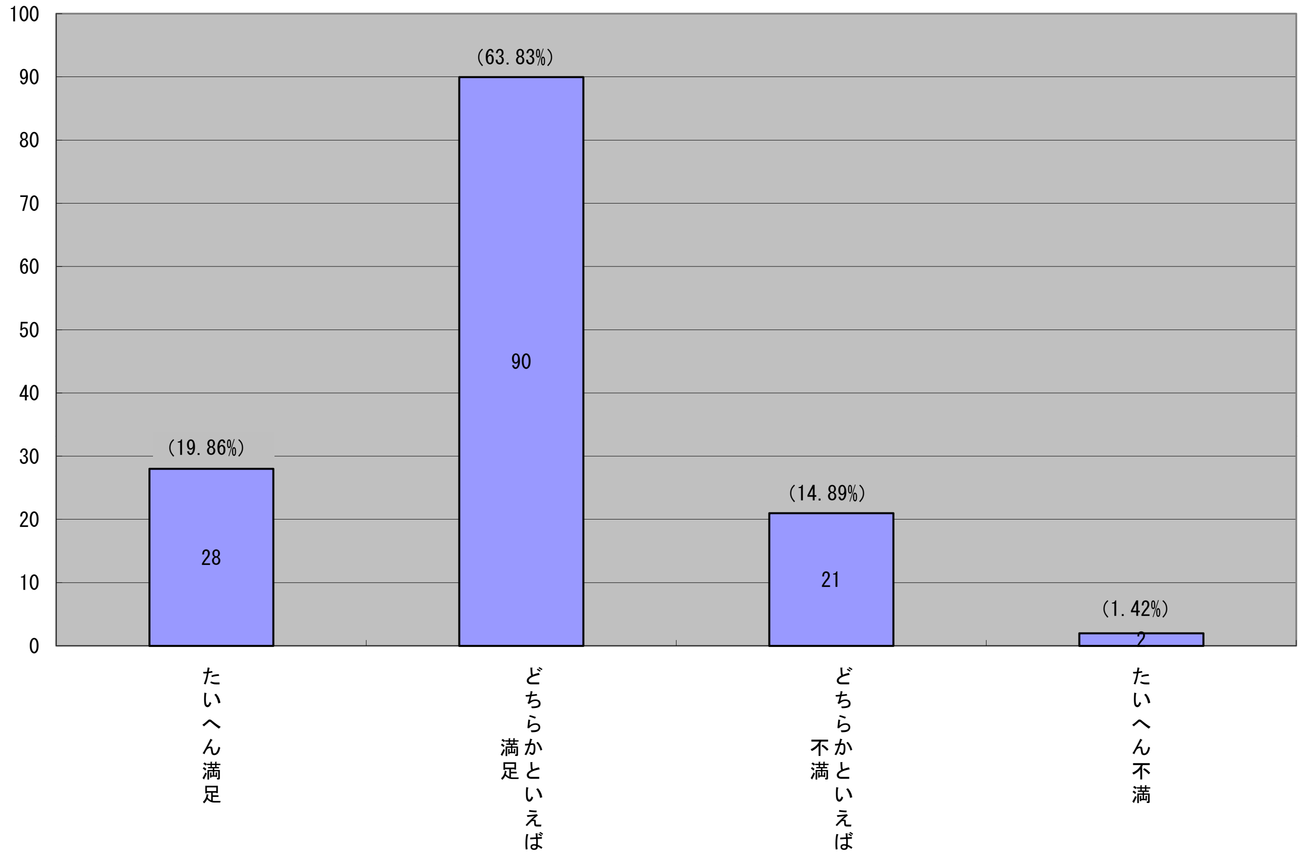
(14)　もし、土樋キャンパスを中心とした仙台市内中心部に３つのキャンパスを
統合するという案が出されたとして、あなたは賛成ですか、反対ですか。【全体】



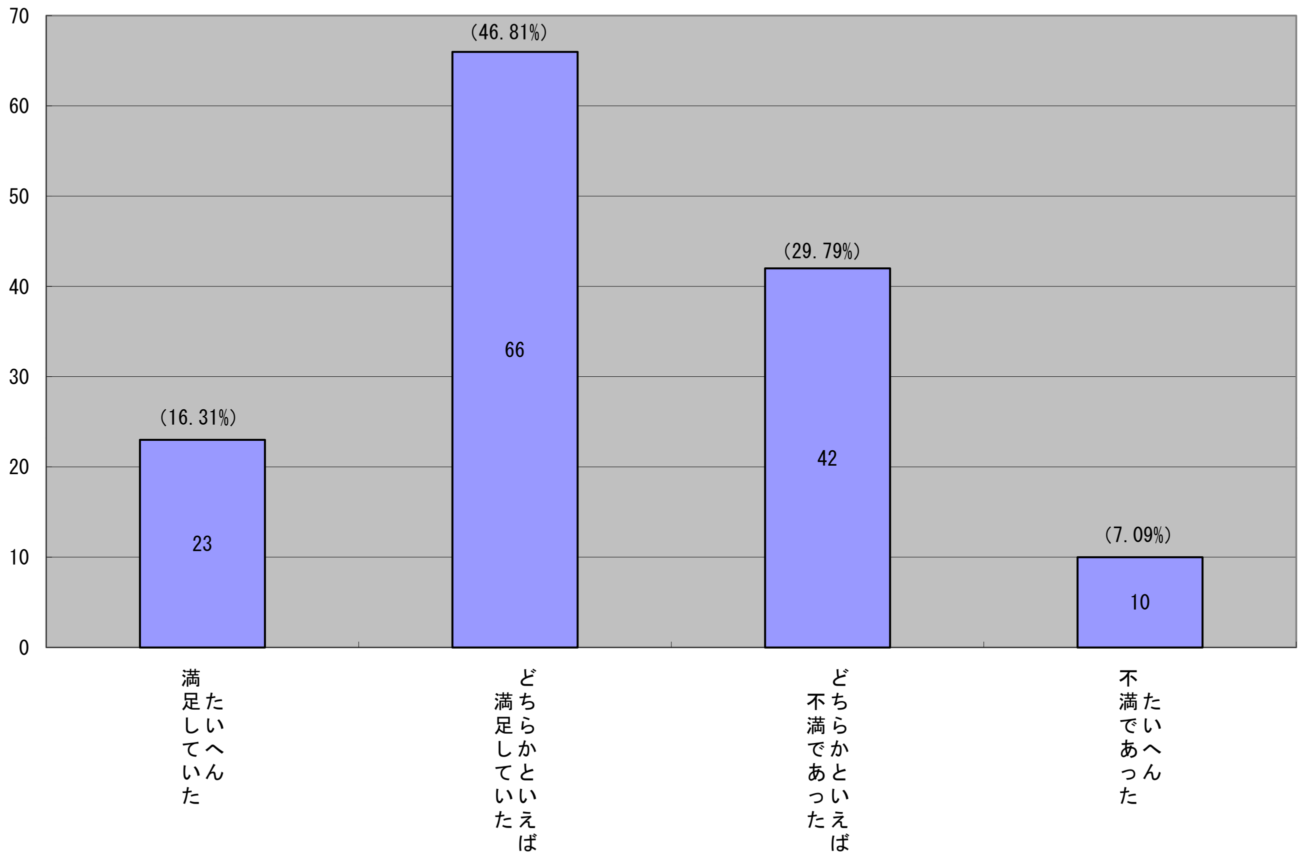

(14)　もし、土樋キャンパスを中心とした仙台市内中心部に３つのキャンパスを
統合するという案が出されたとして、あなたは賛成ですか、反対ですか。【所属キャンパス別回答】



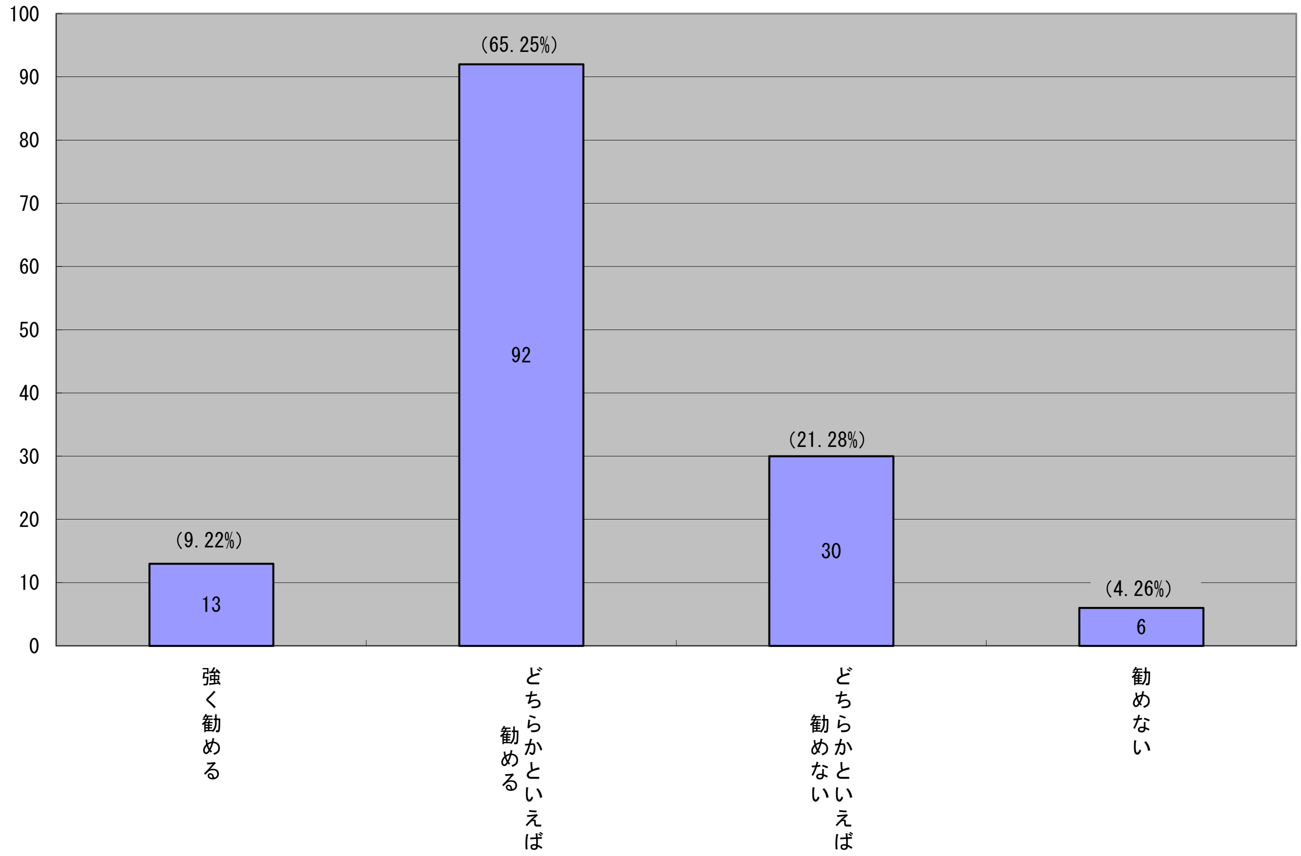
(15)　あなたは、現在、東北学院大学に入学して満足していますか。



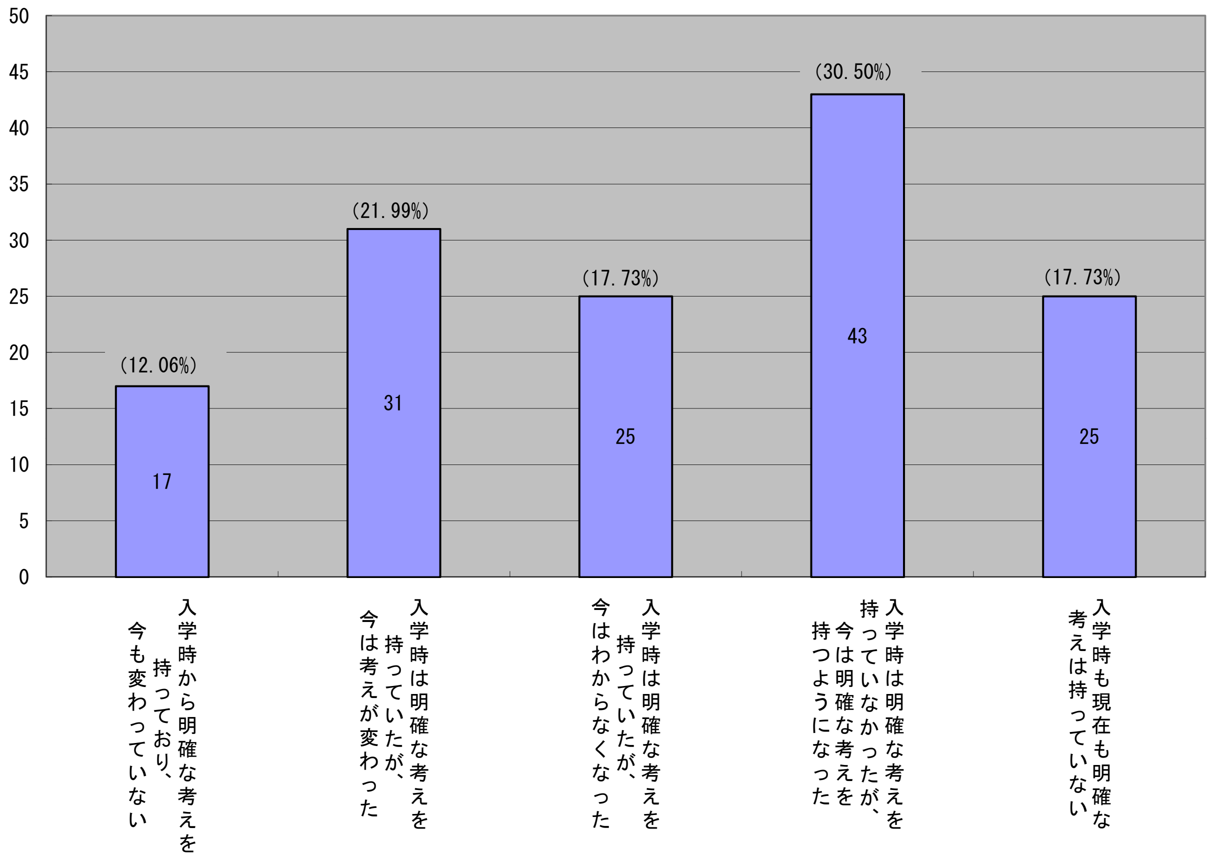

(16)　あなたは、入学したとき、東北学院大学に満足していましたか。



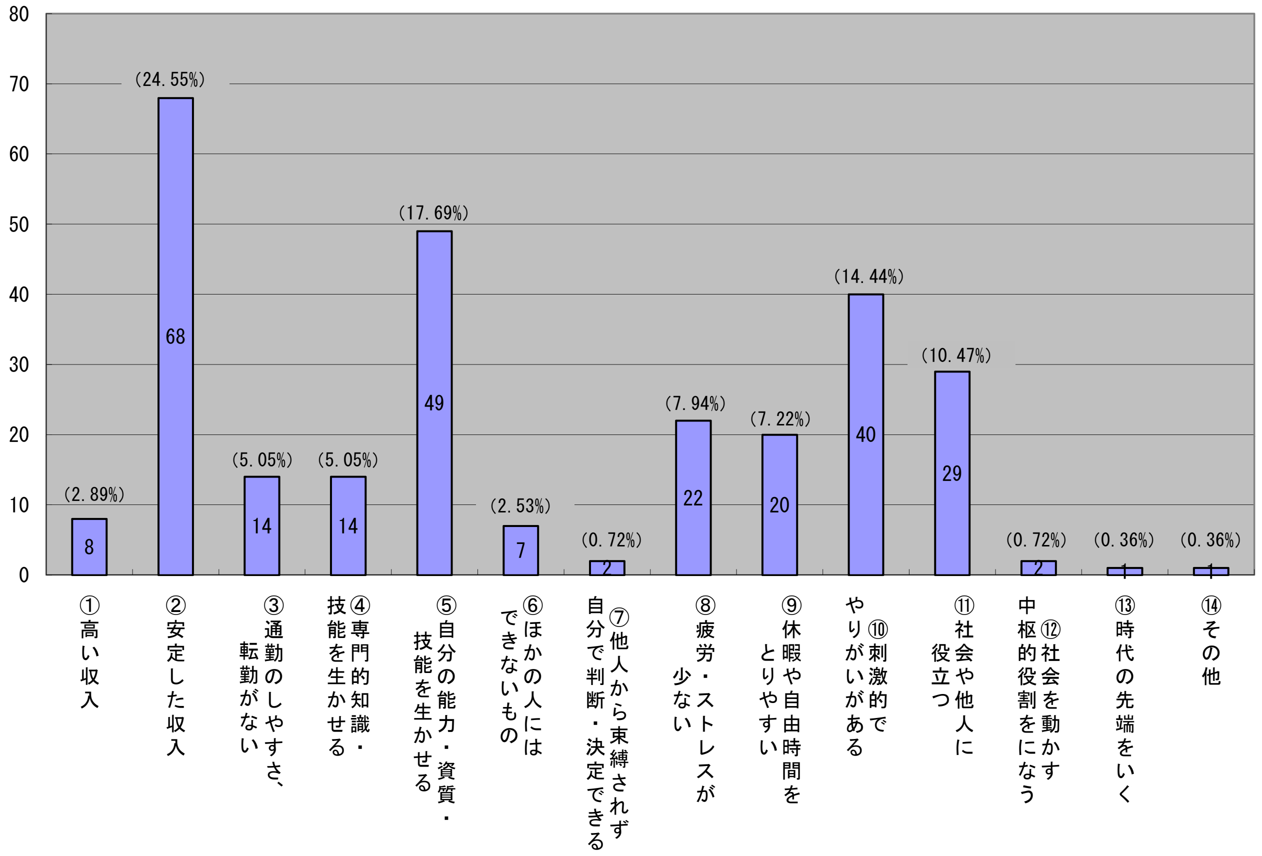
(17)　あなたは、家族や後輩に東北学院大学への入学を相談されたとき、入学を勧めますか。




(18)　あなたは、大学卒業後の進路について、現在、はっきりとした考えをもっていますか。

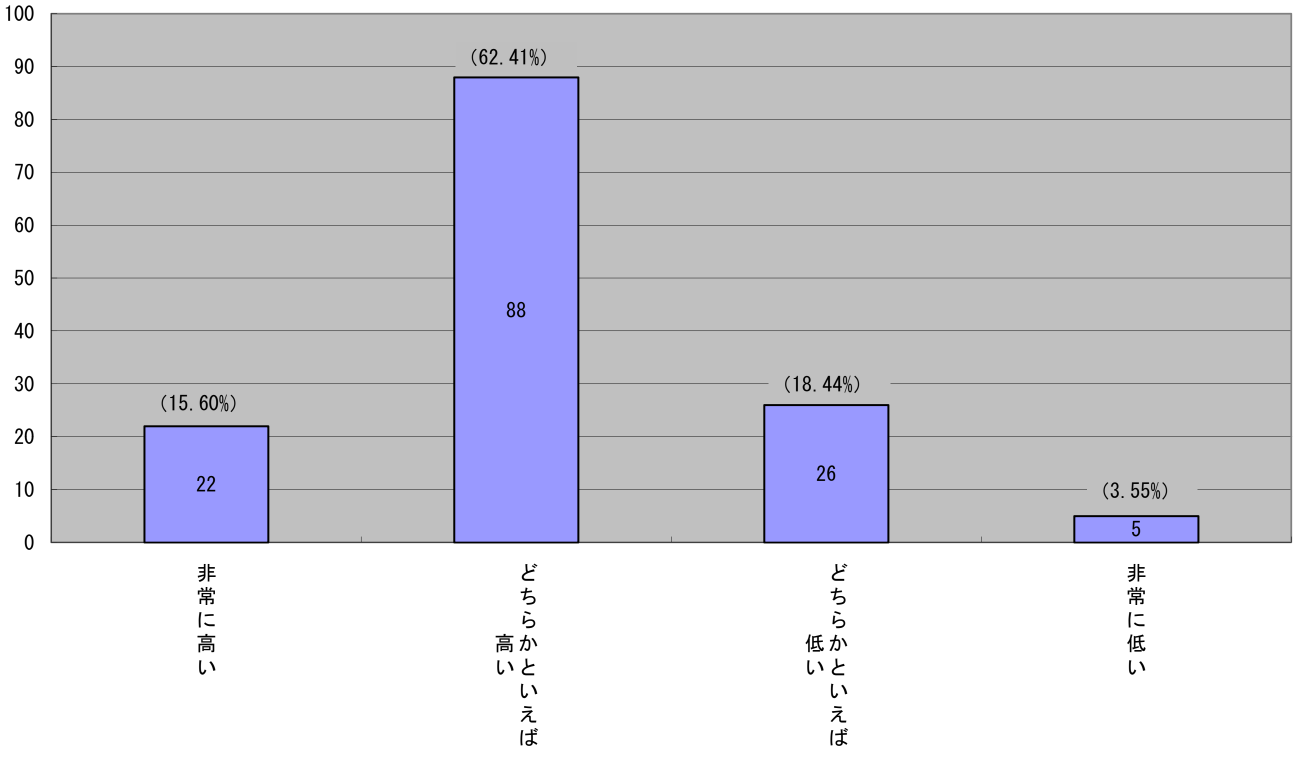


(19)　自分の職業や仕事を決める上で、現在、どんなことを重視していますか。（2つ以内）




［参考］多かった組み合わせは、②⑤（15人）、②⑩（15人）、⑤⑩（13人）、②⑪（10人）、②⑧（9人）、②⑨（8人）

(20)　あなたは、この地域における東北学院大学の社会的な評価は高いと思いますか。



全体を通して、東北学院大学にその他要望等があれば、自由に記入してください。

（原文）

| 学科 | 要望等 |
|---|---|
| 文学部英文学科 | ・泉キャンパスが通うのに非常に不便でした。キャンパスが統合するのはとても賛成です。シャトルバスとかがあれば学生たちも楽になると思います。<br>・泉・土樋キャンパス共に学務課の職員の態度に非常に不満に感じています。以前、友人と単位で分からない部分があったので窓口に相談しに行ったところ態度がとても悪く相談に行く気が失せてしまいました。いくら学生が相手であっても職員たちはそれを仕事にしているので、心地良い対応をすべきだと思います。私だけではなく、周りの友人も職員の態度に非常に不満を感じています。見直すべきだと思います。 |
| 文学部英文学科 | 大学側は、学生は資金源としてだけのものではありません。１人の人間、人生です。学生に対する思いやりの気持ちを持つことで、おそらく、学外の学生の姿勢が変わり、学校の評価も上がるでしょう。<br>学生は、１人の人間です。 |
| 文学部総合人文学科 | 地方から来ている在学生にとって、キャンパス移動があるのは費用がかかって大変なので工学部の多賀城キャンパスのように学部で分けて４年間同じキャンパスであったならばよかったと思う。 |
| 文学部総合人文学科 | ・就活関係の情報を探す上で、宮城、東京、東北は多くても関西の方の職業情報が少ないので、もう少し増やしてくれたら嬉しい。 |
| 文学部総合人文学科 | ・土樋の教室はもう少しキレイにしてほしい。<br>・トイレは全部洋式にしてほしい。 |
| 文学部歴史学科 | ７号館にエレベーターを設置していただきたいです。<br>文化財レスキュー活動の際に大切な資料やダンボールを持ちながら階段を登り降りしており、一歩足をふみ外すと、ケガをしたり、資料が壊れたりしてしまいますし、前後に同じようにものを持った人がいたら、その人も巻きこむ事故になります。<br>自分達で注意をしていても、いつ何が起こるか分からないので危険です。<br>どうかご検討のほどよろしくお願いいたします。 |
| 文学部歴史学科 | 泉キャンパス学務課の職員の対応がひどい（横柄、ミスが多い）と思う<br>→サークルでイベントを行う際に教室を借用したら、学務課のミスで他のサークルとブッキングし、予定を急遽変更することになった |
| 経済学部共生社会経済学科 | 窓口の対応が不快です |
| 経済学部共生社会経済学科 | 大学の構内を見ていると、バリアフリーがあまり意識されていないように感じます。どんな学生も過ごしやすくなるような大学作りは大切だと思います。 |
| 経済学部共生社会経済学科 | 学食の値段を下げてほしい。メニューを増やしてほしい。 |
| 法学部法律学科 | 休校・休講の連絡が遅い。<br>８号館以外の施設が古く汚い。<br>夏は寒く、冬は暑い。 |
| 法学部法律学科 | ・品位に欠ける学生が多く、「学院生」として一くくりに同視されるのは本望ではない。<br>・大学周辺の一般道における学院生の通行（歩行）が自己中心的で危険に感じる。<br>・泉キャンパスでの職員の窓口対応にて、横柄な態度で対応されたことが非常に不愉快であった。丁寧な対応をしてくださる職員の方もいたので余計に残念である。<br>・学費をもう少し安くしてほしい。 |
| 工学部環境建設工学科 | もっと専門分野が学べる授業を増やしてほしかった |

| 学科 | 要望等 |
| --- | --- |
| 工学部環境建設工学科 | 多賀城キャンパスの施設をもっと充実させてほしい。<br>より勉強しやすい空間にしてほしい。<br>階段が多すぎるので、バリアフリーなキャンパスにしてほしい。 |
| 工学部環境建設工学科 | 工学部に対してですが、建築の科もあるので、施設・設備をきちんと改良してほしい。<br>研究室の決め方がおかしい。くじや下位の人優先はおかしすぎる。<br>努力してきた人をふみにじってる。 |
| 教養学部人間科学科 | 友人の多くが県内の自宅から公共交通機関を利用し通学しています。私はおもに原付バイクで20～30分強ほどの通学手段ですが、冬場はバスを徳剛がければならないため、１時間～１時間半かかります。<br>学院大（泉キャンパス）の悪いところをひとつあげるならば、交通の便が悪いところだと思います。ぜひ見直して頂きたいです。 |
| 教養学部人間科学科 | キャンパス内禁煙であるはずなのに、喫煙所が設けられているのはなぜでしょうか？<br>キャンパス内を禁煙にすることで、学生達がキャンパス外での喫煙をし、地域住民等から苦情が来ることは、容易に想像できたはずです。現在のように、裏門付近に喫煙コーナーがあっては、通る度に不快な思いをします。対応をお願いします。 |
| 教養学部人間科学科 | 学校で受けることができる検定試験などがもっと増えると嬉しいです。 |
| 教養学部人間科学科 | ・食堂の収用人数の拡大<br>・食堂の場所の開放時間の拡大 |
| 教養学部言語文化学科 | ・いくら試験での不正行為の禁止を呼びかけても、なくならない現実。罰による抑制だけでなく、なぜ不正行為をするのかという観点からも対策を講ずるべし。（解決例　見回り係を増やす[または教室の縮小]。小さい紙に解答を書いての犯行多数とのこと。監視の限界、死角あり。携帯電話[iフォーン？]の電源を切らせ、机の上に出させる。予防として、担当との成績に関する相談の機会を充実させる[不安を消す]。<br>・他学部との交流の場を増やしてほしい。<br>・学生のマナー向上への取組みをさらに強化してほしい（例　ラウンジ・教室でのごみのちらかり）<br>・教養学部以外にも卒論・ゼミを必修化すると、何か不都合があるのでしょうか（締りがない学生生活への懸念）。<br>・説明会等を授業時間とかぶらせないで頂きたい。<br>・ゼミ研修を東北以外でやる時もまともな金額を出してほしい（3,000円!?)<br>・収支報告書を広く配布すべし（総会出席の学生以外）。<br>・悪いことをしていないにもかかわらず、威圧的な職員をどうにかしてほしい（主に一号館）。<br>・受講しても、「教科書を見れば良いから、テスト直前だけ来てね」という担当への取り締まり。教養科目でたまにいる（時間とお金を返してくれ）。<br>・逆に教科書を全く使わない担当も考え物である（学生は皆リッチではない）。<br>・掲示板をしっかり整理してほしい（終わったものは早く処分してほしい）。<br>・教職科目での成績で「100」と「60」が同価値なのが納得できない。今後、大学側には踏み込んだ議論をして頂くことを期待する。<br>・教職の情報をMyTGUなどでより正確に伝えることが必要。確認しない学生の過失は大きいが改善の余地あり。 |
| 教養学部言語文化学科 | 友人が、「キャンパス全面禁煙と言っているのに、実際は部室棟へいく時に通る道でたくさんの人がタバコを吸っていて、以前より迷惑になったと言っていました。 |

| 学科 | 要望等 |
| --- | --- |
| 教養学部言語文化学科 | 図書館や情報処理センター、教室などの利用時間をもう一時間程度伸ばしていただけると助かります。<br>例えば、夏場などはクーラーのきいていない家に住んでいる学生は勉強することが非常に困難になります。<br>また、パソコンを持っていない学生（特に一年生）は情報処理センターをたよります。しかし、18：50までだとコマ数が多い学生はあまり利用することができません。したがって、施設利用時間を延長を希望します。 |
| 教養学部情報科学科 | 私たち現３年生は、震災の影響で入学式、オリエンテーションキャンプが中止されてしまったが、その分のお金がどうなったかの説明がなかったため、非常に不満だった。学務課の対応もとても悪く、行きにくい。窓口なのだから、もっと笑顔を心がけた方が良いと思う。女子トイレの和式だらけのスタイルも改善した方が良いと思う。 |
| 教養学部情報科学科 | 泉キャンパスの学務係の対応があまり好ましくありません。親切で丁寧な対応をしてくれる人もいますが、もう少し全体的にそのような対応をしてくれるようにして欲しいです。 |
| 教養学部情報科学科 | 学務係・学生係の窓口で不快に思うほど対応が悪い方がいて困っている。 |
| 教養学部地域構想学科 | 学費のより細かい内訳が知りたいです。 |

# ５．参考資料

# 平成25年度　東北学院大学外部評価委員会　委員名簿

（敬称略）

| No. | 職名1 | 職名2 | 氏名 | 根拠規程1 | 根拠規程2 | 任期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 委員 | 石巻専修大学　学長 | 坂田　　隆 | 第5条第2項第1号 | 大学等の教育機関の教員 | H25.4.1～H28.3.31 |
| 2 | 委員 | 東北大学高等教育開発推進センター　副センター長 | 関内　　隆 | 第5条第2項第1号 | 大学等の教育機関の教員 | H25.4.1～H28.3.31 |
| 3 | 委員 | 株式会社清月記　社長 | 菅原　裕典 | 第5条第2項第2号 | 経済界の関係者 | H25.4.1～H28.3.31 |
| 4 | 委員 | 多賀城市長 | 菊地健次郎 | 第5条第2項第3号 | 本学の所在する地域の関係者 | H25.4.1～H28.3.31 |
| 5 | 委員 | 山形県立米沢女子短期大学　学長 | 遠藤　恵子 | 第5条第2項第4号 | 本学に在職した経験を有する者 | H25.4.1～H28.3.31 |
| 6 | 委員 | 仙台市　元副市長 | 加藤　義雄 | 第5条第2項第5号 | 本学の学部を卒業した者、または大学院を修了した者 | H25.4.1～H28.3.31 |
| 7 | 委員 | 宮城県仙台南高等学校　校長 | 須藤　　亨 | 第5条第2項第6号 | 前号までに定める者以外に、大学に関し広くかつ高い見識を有する者 | H25.4.1～H28.3.31 |

# ○東北学院大学外部評価委員会規程

平成 20 年４月１日
制定

改正　平成 22 年６月１日

（設置）

**第１条**　東北学院大学（以下、「本学」という。）に、東北学院大学点検・評価に関する規程第 15 条および第 16 条に定める外部評価を実施する機関として、東北学院大学外部評価委員会（以下、「委員会」という。）を置く。

（目的）

**第２条**　委員会は、本学が作成した点検・評価報告書に基づいて第三者の立場から評価し、本学の教育・研究水準の向上および組織の活性化に資する提言を行う。

（評価項目）

**第３条**　評価項目については、東北学院大学点検・評価に関する規程第３条および同規程別表、ならびに東北学院大学大学院法務研究科点検・評価に関する規程第３条および同規程別表に定める諸項目に準じて、東北学院大学点検・評価委員会（以下、「点検・評価委員会」という。）が検討し、学長に提案する。

２　前項の規定にかかわらず、点検・評価委員会による提案、委員会による評価のいずれの場合においても、前項に定める項目の趣旨を損わない限りで、評価項目を簡略化することができる。

（評価の時期）

**第４条**　委員会による評価・答申が実施される年度は、大学基準協会による評価を含む外部評価の実施の間隔が２年を超えないように、適切に決定されるものとする。

２　委員会による評価・答申が実施される年度に関しては、点検・評価委員会が検討して学長に提案する。

（組織の構成）

**第５条**　委員会は、委員若干名で構成される。

２　委員は、次に掲げる者のうちから、大学の運営に関して広くかつ高い見識を持つと思われる者を学長が選考し、委嘱する。

（１）　大学等の教育機関の教員

（２）　経済界の関係者

（３）　本学の所在する地域の関係者

（４）　本学に在職した経験を有する者

（５）　本学の学部を卒業した者、または大学院を修了した者

（６）　前号までに定める者以外に、大学に関し広くかつ高い見識を有する者

３　委員の任期は３年とし、再任を妨げない。

４　学長は、委員を委嘱した場合、委員の氏名・所属等を、速やかに点検・評価委員会に通知するとともに、公表する。

５　委員会には、点検・評価委員会委員長のほか、本学の点検・評価に責任を持つ専任教職員が、必要に応じて陪席する。

（委員長および副委員長）

**第６条**　委員会に委員長及び副委員長一人を置き、委員の互選で定める。

２　委員長は、委員会の業務を統括する。

３　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

（委員会の運営）

**第７条**　委員会は、学長の要請に応じて委員長が招集し議長となる。

２　委員会において検討されるべき事項、および評価を行う年度等については、点検・評価委員会の提案をふまえて、学長が委員会に提示するものとする。

３　委員会は、第２条および第３条に基づいて行われた評価の結果および改善を求める提言事項を外部評価報告書にまとめ、学長に提出する。

４　学長は、前項に定める外部評価報告書を、点検・評価委員会に報告する。

５　委員会は、外部評価報告書を作成することとはされていない年度にあっても、少なくとも年に１回は開催され、本学が行っている事業に関する簡略な報告を受けるものとする。

６　学長がこの規程にかかわる行為を行うにあたっては、点検・評価委員長が補佐する。

（守秘義務）

**第８条**　委員会の委員は、この規程に基づく評価を行う際に知り得た事項のうち、秘すべきとされた事項は、他に漏らしてはならない。

（事務取扱）

**第９条**　委員会の事務は、学長室学長室事務課が行う。

（規程の改廃）

**第 10 条**　この規程の改廃は、学長との協議を経て点検・評価委員会が発議し、全学教授会および大学院委員会の議を経て、理事会の承認を得るものとする。

**附　則**

この規程は、平成 20(2008)年４月１日から施行する。

**附　則**

この規程は、平成 22(2010)年６月１日から施行する。

# 第２期東北学院大学外部評価　概要

平成 25 年７月１日外部評価委員会

## １．東北学院大学の外部評価について

本学は、学校教育法に基づく自己点検・評価及び認証評価に加えて、第三者による教育・研究活動の評価を受けることにより、教育・研究水準の向上と組織の活性化を図ることを目的として、平成 20 年４月に「東北学院大学外部評価委員会規程」を制定しました。

その後、平成 21 年３月に第１期外部評価委員会が発足し、平成 25 年３月まで毎年外部評価（計３回）を実施しました。

このたび、第１期外部評価委員会の任期満了に伴い、平成 25 年４月に第２期外部評価委員会が発足しました。

## ２．第２期外部評価について

(1) 第１期外部評価委員会からの引き継ぎ事項

平成 24 年度の外部評価委員会におきまして、次年度以降の外部評価について大学と協議を行い、以下の事項を確認しました。

また、平成 25 年４月 18 日（木）に開催した点検・評価委員会で、これらを念頭に置いた外部評価の実施を承認しました。

| |
|---|
| ①自己点検・評価や認証評価との差別化を図る。<br>…評価対象・時期等の重複の回避、大学内部の PDCA サイクルの循環の促進<br>②評価に係る双方の負担を軽減する。<br>…評価資料そのものや教職員の負担の削減<br>③新たな評価手法として、在学生や卒業生などへのインタビューなどを検討する。<br>…大学自己点検・評価の項目にはないステークホルダーからの生の意見聴取 |

(2) 第２期外部評価の概要（点検・評価委員会提案）

①評価年度：平成 25～27 年度、３年間３回

②調査対象：在学生、卒業生、企業等（卒業生の就職先の企業等が望ましい）
→１年目を在学生、２年目を卒業生、３年目を企業等、とする。
在学生については、状況に応じて継続して調査対象とする。

③評価方法：外部評価委員会によるインタビュー調査を行い、その結果をもとに大学に対する指摘、助言等を行う。

④評価項目：学習成果や学生生活、大学への要望など

以上

# 平成25年度　東北学院大学外部評価
# 在学生アンケート調査

実施主体：東北学院大学外部評価委員会
事　務　局：東北学院大学学長室事務課

**【この調査について】**

この調査は、学外の第三者から構成される外部評価委員会において、本学の教育・研究等を評価する「外部評価」を実施するにあたり、現在在籍している学生の意識や本学への評価を調査するために、すべての学部学科の３年生の一部を対象に行うものです。

調査で調べたい内容は、各学部学科の在学生の傾向であり、各個人の回答内容ではありません。また、ここでの回答は、すべてコンピュータで記号的に処理されます。ここでの回答によってみなさんに迷惑がかかることは決してありませんので、質問には正直に答えてください。

## 基本情報

| | | | |
|---|---|---|---|
| **学　　科** | | **学生番号** | |
| **性　　別** | 1．男　／　2．女 | **居住形態** | 1．自宅　／　2．自宅外 |
| **通学時間** | 1．30分以内 ／ 2．30～60分 ／ 3．60～90分 ／ 4．90～120分 ／ 5．120分以上 | | |

●回答は、ページ右にある記入欄に番号で答えてください。

(1)　どの入試で入学しましたか。
（複数の入試に合格した場合は、入学手続きをした入試を答えてください）

（回答記入欄）

1. ＡＯ入試
2. 帰国子女特別入試
3. 学業推薦入試
4. 資格取得推薦入試
5. スポーツ推薦入試
6. キリスト者等推薦入試
7. 社会人特別入試
8. ＴＧ推薦入試
9. 外国人留学生特別入試
10. 一般入試(前期・全学部型)
11. 一般入試(前期・分割型)
12. 一般入試(後期)
13. センター試験利用入試(前期)
14. センター試験利用入試(後期)

(2)　奨学金制度を利用していますか。
（複数の制度を利用している場合は、すべて答えてください。）

1. 大学の給付奨学金を利用している
2. 大学の貸与奨学金を利用している
3. 学外の給付奨学金を利用している（日本学生支援機構など）
4. 学外の貸与奨学金を利用している（　　　〃　　　）
5. 奨学金は利用していない

(3)　次のようなクラブ・サークル活動を行っていますか。（複数選択可）

1.　大学の体育系団体で活動している
2.　大学の文化系団体で活動している
3.　学外の体育系団体で活動している
4.　学外の文化系団体で活動している
5.　ボランティア活動を行っている（大学・学外問わず）
6.　そうした活動は行っていない

(4)　現在、アルバイトをしていますか。

1.　している→(5)へ　　　　2.　していない→(6)へ

(5)　1週間の平均勤務時間を記入してください。（夏休み等の長期休暇期間を除く）

週________回　　1日平均__________時間

(6)　大学の授業にどの程度出席していますか。

1.　登録した履修した科目のすべての授業にほぼ出席している
2.　ときどき休むことがあるがたいてい出席している
3.　授業には半分くらいしか出席していない
4.　授業にはたまにしか出席していない

(7)　あなたが本学を受験した理由は何ですか。（2つ以内）
「16.その他」を選んだ場合は(　　　)内に具体的に書いてください。

1.　伝統があり、定評のある大学だから
2.　キリスト教に基づく大学だから
3.　入りたい学部・学科・コースがあったから
4.　自宅から通える大学だから
5.　仙台にある大学だから
6.　教員スタッフが良さそうだから
7.　施設・設備が良さそうだから
8.　校風や雰囲気が良さそうだから
9.　キャンパスが気に入ったから
10.　就職が有利になりそうだから
11.　自分の学力に相応していたから
12.　すべり止めとして適当だったから
13.　適当な入試制度があったから
14.　親や先生、周囲の人から勧められたから
15.　兄姉、先輩など知っている人が入学しているから
16.　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

(8)　あなたが本学を受験したとき、第一志望はどこでしたか。

1. 現在所属している学科が第一志望だった
2. 本学のほかの学科が第一志望だった
3. ほかの私立大学が第一志望だった
4. 国公立大学が第一志望だった

(9)　あなたは、現在、学生生活が充実していると感じますか。

1. 充実している
2. どちらかといえば充実している
3. どちらかといえば充実していない
4. 充実していない

(10)　現在、あなたが大学生活で特に力を入れていることは何ですか。（2 つ以内）
「14. その他」を選んだ場合は(　　　)内に具体的に書いてください。

1. 知識を広げ、教養を高める
2. 専門分野に関する深い知識や技能を習得する
3. 人生の根本問題を深く考え、精神的に成長する
4. 多くのことにチャレンジし、経験や見聞を広める
5. ボランティア活動など社会に貢献できる活動をする
6. 一生の友人となるような親しい友人をつくる
7. 交友関係をひろげ、多くの友人をつくる
8. 自分のめざす進学・就職のための準備をする
9. 自分にあった進路や仕事を見いだす
10. 趣味や好きなことに時間をさく
11. クラブやサークルで活動する
12. アルバイトをする
13. 特にない
14. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　）

(11)　では、入学したとき、あなたが大学生活で特に力を入れたいと思っていたことは何ですか。（2 つ以内）

「14. その他」を選んだ場合は(　　　)内に具体的に書いてください。

1. 知識を広げ、教養を高める
2. 専門分野に関する深い知識や技能を習得する
3. 人生の根本問題を深く考え、精神的に成長する
4. 多くのことにチャレンジし、経験や見聞を広める
5. ボランティア活動など社会に貢献できる活動をする
6. 一生の友人となるような親しい友人をつくる
7. 交友関係をひろげ、多くの友人をつくる
8. 自分のめざす進学・就職のための準備をする
9. 自分にあった進路や仕事を見いだす
10. 趣味や好きなことに時間をさく
11. クラブやサークルで活動する
12. アルバイトをする
13. 特にない
14. その他（　　　　　　　　　　　　　）

①［　　］
②［　　］

(12)　入学したときに力を入れたいと思っていたことは、どの程度達成できましたか。(11) で回答した項目ごとに答えてください。

1. 達成できた
2. ある程度達成できた
3. あまり達成できなかった
4. 達成できなかった

（①の回答）［　　］
（②の回答）［　　］

(13)　東北学院大学に対する満足度について、以下の各項目を 4 段階で答えてください。それぞれ数字に○を記入してください。

| | 非常に満足 | どちらかといえば満足 | どちらかといえば不満 | 非常に不満 |
|---|---|---|---|---|
| 1. 授業・学習支援 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 就職・キャリア支援 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 学生生活支援（奨学金、課外活動など） | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. キャンパス・諸施設 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 職員の窓口対応 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 通学の便 | 1 | 2 | 3 | 4 |

(14) もし、土樋キャンパスを中心とした仙台市内中心部に３つのキャンパスを統合するという案が出されたとして、あなたは賛成ですか、反対ですか。

1. 大いに賛成である
2. ある程度賛成である
3. ある程度反対である
4. 大いに反対である

(15) あなたは、現在、東北学院大学に入学して満足していますか。

1. たいへん満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満である
4. たいへん不満である

(16) あなたは、入学したとき、東北学院大学に満足していましたか。

1. たいへん満足していた
2. どちらかといえば満足していた
3. どちらかといえば不満であった
4. たいへん不満であった

(17) あなたは、家族や後輩に東北学院大学への入学を相談されたとき、入学を勧めますか。

1. 強く勧める
2. どちらかといえば勧める
3. どちらかといえば勧めない
4. 勧めない

(18) あなたは、大学卒業後の進路について、現在、はっきりとした考えをもっていますか。

1. 入学時から明確な考えを持っており、今も変わっていない
2. 入学時は明確な考えを持っていたが、今は考えが変わった
3. 入学時は明確な考えを持っていたが、今はわからなくなった
4. 入学時は明確な考えを持っていなかったが、今は明確な考えを持つようになった
5. 入学時も現在も明確な考えは持っていない

（19） 自分の職業や仕事を決める上で、現在、どんなことを重視していますか。（2 つ以内）
「14.その他」を選んだ場合は(　　　)内に具体的に書いてください。

1. 高い収入が得られること
2. 安定した収入が得られること
3. 通勤しやすく転勤がないこと
4. 大学で学んだ専門的知識・技能を生かせること
5. 自分の能力・資質・技能を発揮できること
6. ほかの人にはできないものであること
7. 他人から束縛されず自分で判断・決定できること
8. 疲労やストレスが少ないこと
9. 休暇や自由時間をとりやすいこと
10. 自分にとって刺激的でやりがいがあること
11. 社会や他人に役立つこと
12. 社会を動かす中枢的役割をになうこと
13. 時代の先端をいくものであること
14. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

（20） あなたは、この地域における東北学院大学の社会的な評価は高いと思いますか。

1. 非常に高いと思う
2. どちらかといえば高いと思う
3. どちらかといえば低いと思う
4. 非常に低いと思う

---

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。
最後に、全体を通して、東北学院大学にその他要望等があれば、自由に記入してください。

# 平成 25 年度東北学院大学外部評価　インタビュー調査　実施要領

## １．目的

　大学のステークホルダーである在学生、卒業生及び地域社会に対して、大学の教育環境・成果等に関するインタビュー調査を実施し、その内容をもとに外部評価を行い、もって大学の活性化に資する提言を行うこと。特に、より多くの受験生を獲得するために、優れた点、改善を要する点を明らかにする。

## ２．インタビュー調査

(1) インタビュー対象について

①対象（各学部から１名）

・在学生（３年生）　　　　　…　６人

・卒業生（卒業後５年程度）　…　６人

②抽出方法

・在学生…大学で、事前に各学科 10 人、計 150 人を対象としたアンケート調査を行い、回答者の中からインタビュー調査の参加者を無作為に抽出。

・卒業生…大学で、各学部１名（経済学部は旧経営学科を含む）の卒業生を人選。

(2) インタビュー内容・方法について

・在学生、卒業生のいずれについても、特別な質問項目等は設けないが、以下の２点を質疑応答の主たる要素とする。

①東北学院大学の教育についての要望、良い点、改善を要する点

②東北学院大学の教育以外の事項についての要望、良い点、改善を要する点

・大学からの質問希望項目は、以下のとおりである。

①在学生：どういう意味で学生生活が充実しているのか、本学の教育内容・方法についての改善点、職員の窓口対応の満足度が低いことについての具体的な事例等

②卒業生：在学時の教育内容・方法を振り返っての要望、在学時の教育が社会に出て役に立ったこと

## ３．評価の流れ

(1) インタビュー調査当日（所要時間：約３時間）

①事前打ち合わせ（10 分）

・外部評価委員に対して、インタビュー調査の実施に先立って、点検・評価委員長及び事務局から簡単な説明を行う。

②インタビュー調査（一人あたり 30 分×１グループあたり４回、計 120 分）

・外部評価委員は、当日３つのグループ（２～３人×３グループ）に分かれ、それぞれインタビュー対象者１人を担当する。

・グループ分けは、次のとおり。

(a) 遠藤委員長、菊地委員、須藤委員

(b) 加藤副委員長、関内委員

(c) 坂田委員、菅原委員

・各インタビュー終了後、10 分間の休憩をとる。

③事後打ち合わせ（20～30 分）

・大学に概要を報告し、今後の流れを確認する。

(2) 評価作成

・各委員は、インタビュー調査結果をもとに評価を行い、その原案を委員長に提出する。

・評価にあたっては、必要に応じて『大学案内』などの基礎資料も利用する。

・評価成案の作成とともに、委員会としての総括及び各委員からの提言を取りまとめ、『外部評価報告書』を作成する。

## 平成25年度東北学院大学外部評価　インタビュー調査　タイムスケジュール

〇日時：平成25年12月３日（火）14時00分～17時20分
〇会場：東北学院大学土樋キャンパス８号館（３階）第２～４会議室
〇評価委員グループ分け：
　①遠藤委員長、菊地委員、須藤委員／②加藤副委員長、関内委員／③坂田委員、菅原委員

<table>
<tr><th>時間</th><th>内容</th><th>会場</th><th>評価委員担当者</th><th>対象者</th></tr>
<tr><td>14：00～14：10</td><td>事務連絡</td><td>本館応接室</td><td>全委員</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">会場移動</td></tr>
<tr><td rowspan="3">14：15～14：45</td><td rowspan="3">インタビュー調査①</td><td>第２会議室</td><td>①グループ</td><td>工学部卒業生</td></tr>
<tr><td>第３会議室</td><td>②グループ</td><td>教養学部卒業生</td></tr>
<tr><td>第４会議室</td><td>③グループ</td><td>経済学部卒業生</td></tr>
<tr><td colspan="5">休憩（14：45～14：55）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">14：55～15：25</td><td rowspan="3">インタビュー調査②</td><td>第２会議室</td><td>①グループ</td><td>文学部卒業生</td></tr>
<tr><td>第３会議室</td><td>②グループ</td><td>文学部在学生</td></tr>
<tr><td>第４会議室</td><td>③グループ</td><td>経済学部在学生</td></tr>
<tr><td colspan="5">休憩（15：25～15：35）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">15：35～16：05</td><td rowspan="3">インタビュー調査③</td><td>第２会議室</td><td>①グループ</td><td>法学部在学生</td></tr>
<tr><td>第３会議室</td><td>②グループ</td><td>経営学部在学生</td></tr>
<tr><td>第４会議室</td><td>③グループ</td><td>教養学部在学生</td></tr>
<tr><td colspan="5">休憩（16：05～16：15）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">16：15～16：45</td><td rowspan="3">インタビュー調査④</td><td>第２会議室</td><td>①グループ</td><td>経営学科卒業生</td></tr>
<tr><td>第３会議室</td><td>②グループ</td><td>法学部卒業生</td></tr>
<tr><td>第４会議室</td><td>③グループ</td><td>工学部在学生</td></tr>
<tr><td colspan="5">会場移動</td></tr>
<tr><td>16：50～17：20</td><td>評価に関する打ち合わせ、<br>事務連絡</td><td>本館応接室</td><td>全委員</td><td></td></tr>
</table>

# 平成 25 年度　第１回　東北学院大学外部評価委員会　議事録

○日　　時：平成 25 年７月１日（月）15 時 00 分～16 時 05 分
○場　　所：東北学院大学土樋キャンパス８号館（３階）第３会議室
○委員出席者：遠藤恵子（委員長）、加藤義雄（副委員長）、坂田隆、菅原裕典、菊地健次郎、須藤亨（以上、委員）
○陪 席 者：松本宣郎（学長）、佐々木俊三（総務担当副学長、学長室長）、斎藤誠（学務担当副学長、点検・評価委員会委員長）、辻秀人（文学部長）、原田善教（経済学部長）、伊達秀文（工学部長）、佐久間政広（教養学部長）、高橋志朗（経営学研究科長）、石橋良信（工学研究科長）、石垣茂光（法務研究科長）、佐々木哲夫（宗教部長）、千葉昭彦（学務部長）、石塚秀樹（学生部長）、中川清和（図書部長）、佐々木郁子（国際交流部長）、松澤茂（情報システム部長）、日野哲（総務部長）、木村安博（施設部長）、斎藤英夫（庶務部長）、若生克義（人事部長）、駒板高明（財務部長）、斎藤信二（総務部次長）、武田三子雄（多賀城ｷｬﾝﾊﾟｽ担当総務部次長）、佐藤光男（泉ｷｬﾝﾊﾟｽ担当総務部次長）、菊地祐一（学長室事務課長）、千葉真哉（石巻専修大学）、針生美由紀（多賀城市）、相澤孝明、村田大（以上、事務局：学長室事務課）
○配付資料：資料１：外部評価委員会　委員名簿
資料２：東北学院大学外部評価委員会規程
資料３：前回議事録（平成 24 年度第１回外部評価委員会）
資料４：第２期東北学院大学外部評価　概要
資料５：平成 25 年度外部評価計画表（案）
資料６：平成 25 年度外部評価　在学生インタビューについて（案）
参考：関係資料一式（『大学案内 2014』、『平成 24(2012)年度事業報告書』、「卒業時意識調査」結果[2009-2012 年度]、「新入生意識調査」結果[2013 年度]、『「学生生活実態調査」(2006 年・2010 年)にみられる本学学生の特徴』、『震災学』vol.1、vol.2、『押川方義とその時代』）

○司会：斎藤誠（点検・評価委員会委員長）

## １．開会

(1) 黙祷
（録音了承）
(2) 配付資料の確認（事務局から）
(3) 東北学院大学学長挨拶
(4) 出席者の紹介
(5) 前回議事録の承認

・既に各委員の承認を得ていることについて報告がなされた。

**２．議事【議長：委員長選出まで司会者、委員長選出後議長】**

(1) 委員長及び副委員長の選出

◎委員長に遠藤恵子委員、副委員長に加藤義雄委員を選出する。

(2) 東北学院大学の外部評価について

①これまでの外部評価の経緯

○遠藤委員長：はじめに、これまでの外部評価の経緯について大学から説明していただき、認識を確認した後、議事に移る。

○斎藤副学長：東北学院大学外部評価委員会規程では、第２条で外部評価委員会の目的を、第３条でその評価項目を規定している。

この規程に則り、平成 21 年度に第１期外部評価委員会が発足した。その後、平成 22 年度から平成 24 年度まで毎年外部評価を行った。基本的には、年度ごとに、前年度に外部評価委員会から指摘された事項について、その改善状況等を報告する形としていた。主な評価資料は、平成 21 年度に作成した点検・評価報告書であった。

平成 25 年３月で同委員会委員の任期が満了になったことに伴い、第２期外部評価委員会が発足した。このたびの委員就任にあたって、あらためて御礼を申し上げる。

参考までに、本学の自己点検・評価は、規程により３年に一度実施することとしており、直近では平成 24 年度に実施している。その報告書は、今回の外部評価においても基礎的な資料となるだろう。

②第２期外部評価

○斎藤副学長：第２期外部評価については、第１期外部評価委員会でその方向性や改善点などを取りまとめ、資料４でその概要を示している。先ほど発言したとおり、外部評価委員会の評価項目は、規程により大学の点検・評価委員会が提案することとなっている。そこで、資料４の２(2)にあるとおり、主たる評価をインタビュー調査に基づくものにしてはどうかという提案がなされている。

第１期外部評価の反省点として、膨大な評価資料に基づき、細かな部分まで評価を行うという方法だったため、外部評価委員会と大学の負担が大きかったということ、評価の焦点がぼやけてしまったということがあげられる。これらの指摘に基づき、第２期外部評価では、インタビュー調査を中心とし、評価の的を絞ることが提案された。これについて、外部評価委員会で今後の方針等をご審議いただきたい。

○遠藤委員長：大学から第２期外部評価のあり方などについて説明があったが、各委員からご意見やご質問等があれば発言していただきたい。

○坂田委員：インタビューは、誰が誰に行うものか。

○斎藤副学長：基本的には、外部評価委員会が本学に関係する方々にインタビューして

色々な情報を得ていただき、それに基づいて大学の改革・改善に係る提案等を取りまとめていただくことをイメージしている。

評価対象については、外部評価委員会の検討事項になるだろうが、例えば、在学生や卒業生、本学の卒業生を受け入れている企業、場合によっては本学の進学を予定している高校生などが対象となりうるだろう。

◎遠藤委員長：第２期外部評価委員会の方針として、インタビュー調査を中心とした評価を行うことを承認する。

(3) 平成 25 年度の外部評価について

○遠藤委員長：平成 25 年度の外部評価について、大学から説明をお願いする。

○斎藤副学長：資料４は、第２期外部評価全体の概要を示している。資料５は、第２期外部評価計画のたたき台である。

本日の第１回外部評価委員会では、第２期外部評価全体の基本的な方針をご確認いただく。第２回外部評価委員会は、11 月頃に開催し、インタビュー調査を行うことを予定している。

大学の原案としては、平成 25 年度は主として在学生を評価対象にしてはどうかと考えている。これについては、外部評価委員会で議論していただきたい。なお、次年度以降も在学生を適宜評価対象とすることも一つの方法だが、例えば、平成 26 年度は卒業生を、平成 27 年度は卒業生を受け入れている企業を評価対象とするなど、在学生を中心に据えながらも、本学に関連する方々からも別途インタビューをいただくという方法を考えている。

どういうインタビューにするのか、どういう内容を聞くのか、どういう人を対象とするのか、これらについては外部評価委員会でご検討いただきたい。

○遠藤委員長：本日の委員会だけでは細かい事項まで決めることはできないだろう。どういう内容を聞き、何を引き出そうとするのかという基礎的なことから外部評価委員会に投げかけられている。今すぐ考えを述べるのは難しいと思うが、各委員からそれぞれご意見等をいただきたい。

○坂田委員：評価対象は、ある程度の区分から代表を選ぶという方法があるだろう。学部・学年による区分や、入試形態による区分などがある。後者は私学で特に重要になる。推薦入試や附属校入試によって異なる答えを出す可能性はある。

質問事項は、まだ分からない部分も多いが、一つ重要なこととしては、入学前に何を期待していて、入学後にそれがどうなったのかについて、良い点・悪い点を聞くということである。その際、良かったと思えるような点が回答として出されるような設問があるとなおよい。

もう一つは、私学にとって重要な建学の精神について、入学前にそれをどの程度意識していて、入学後にどう思っているのかについて、聞くということである。

○菅原委員：個人的には、卒業生を先に評価対象としていただきたい。在学生でも、入学したばかりの学生がどの程度評価できるかという点が心配である。卒業生は、卒業後 10 年経過した人ではなく、就職して２～３年経った人がよいだろう。

在学生の中から誰に回答してもらうかについても検討しなければいけないし、また優等生的な回答をいただいても役には立たない。ある意味、自信を持って大学を卒業した人に、この大学の良かった点や悪かった点を言ってもらうほうがよい。自分は入学前の期待感と入学後のそれとのずれがあったが、４年間充実していた。

何かを改善しようするときは、良い点と悪い点をあげてもらうなど、ビジネスでいう「利用者の声」が重要になる。127 年の歴史がある東北学院のブランドなので、地元の期待感や東北における東北学院の期待感がどのくらいあるのか、過去と現在の入学率の比較なども外部評価委員会にとって評価材料になる。東北のすべての学生を集められるだけの大学かどうか、また就職先の方向性なども、地域的・職業的に評価できるかどうかという点も重要だろう。

外部評価委員会は、この大学を魅力ある大学にしようとしている。卒業生が胸を張って東北学院の卒業生だと言えるようにしたい。

○加藤副委員長：インタビュー形式は、枠組みを作っても難しい課題である。ある程度事務局で枠組みを作る必要があるのではないか。第１期外部評価ではその枠組みが大きすぎたことを反省したことで、今回のような議論になったのだろう。菅原委員には良い意見を言っていただいた。委員長中心に再度検討していただきたい。良い結果にも悪い結果にもなりうる。

○須藤委員：最近は、高校でも外部評価が求められている。歴史のある高校では、卒業して 10 年経った生徒にアンケートを行い、今の職業を振り返ったときに、高校時代に身につけたものが現在どのくらい役に立っているかという視点から調査している。

卒業生を評価対象とするのであれば、どういう年齢かにもよるが、卒業して 10 年程度経てば、その職業で安定して力を発揮し始める年代になるだろう。また、そのくらいの年代になれば、きちんとした振り返りができるようになる。

○菊地委員：卒業生であれば、卒業後３～５年くらいの若手を評価対象としてはどうかと考えている。在学生であれば、１・２年生はまだ明確な答えが期待できないため、３・４年生を評価対象としたほうがよいだろう。

加藤委員も発言したとおり、事務局で枠組みを決めていただきたい。評価対象からあらかじめ体験談などを話してもらい、それに対して外部評価委員会から質問をするという方法がよいのではないか。

○加藤副委員長：資料６では、在学生を対象としたインタビュー調査のたたき台が提示されている。評価対象については、在学生でも卒業生でも良いと思うが、あらためて審議していただきたい。

○斎藤副学長：資料６に関する説明が不足していたが、それに縛られすぎないようにするという意図もあった。大学としては、学生がどんな思いで学生生活をしているのか、教育成果をどう自覚し、どのような物足りなさを感じているのか、その他様々な要望・不満を聞くことができればと考えていた。

３年間の外部評価において、平成 25 年度は特にある事項を中心に評価を行い、次年度はその結果を踏まえて内容を変化させ、またその次の年度はそれをさらに変化させるような形も一つの方法だろう。

大学の原案では、初年度は在学生を評価対象としているが、これを固持しているわ

けではない。在学生に加えて卒業生も評価対象とすることで、大学を取り巻く全体的な学生の意識がよくわかるという観点からすれば、それも一つの方法である。

なお、資料６の２(4)は、インタビュー調査当日の流れを示している。当日は、事前打ち合わせを経て、インタビュー調査を実施し、それを踏まえた事後打ち合わせを行うことを考えている。午前又は午後をすべて費やすような作業になるだろう。

◎遠藤委員長：具体的な内容を除き、平成 25 年度にインタビュー調査を行うことを承認する。なお、本日の意見交換を踏まえて、評価対象等を事務局で検討していただく。インタビューの内容については、委員長及び事務局で協議を行う。内容を精査するにあたって、細かい部分などを事務局から各委員に別途確認することがある。各委員からさらにご意見やご指摘等がある場合は、事務局に連絡していただきたい。

(4) 今後の予定について

○斎藤副学長：本日の意見を踏まえて、インタビュー調査の具体的な内容を委員長及び事務局で協議する。インタビュー調査の実施は、11 月頃の第２回外部評価委員会とし、後日、日程調整を行う。午前又は午後の時間帯すべてを費やす可能性があることをお含みおき願いたい。その後、これらの評価結果等をまとめた報告書を作成し、平成 26 年２月頃の第３回外部評価委員会で大学に提出いただくとともに、各委員から総評をいただく。

○遠藤委員長：11 月頃にインタビュー調査を実施するということだが、例えば平成 25 年度の評価対象を在学生と卒業生とした場合、10 月などにも調査を行うということもありえるのか。

○斎藤副学長：今後の協議を踏まえて具体的な内容が決定するだろうが、２回に分けて行うということになれば、そのための対応を行う。

○遠藤委員長：例えば、評価対象を卒業生だけとしても、１回のインタビュー調査だけでは不十分だったため、もう一度インタビュー調査を行ったほうがよいという要望が出た場合、２回インタビュー調査を行う可能性があると考えてよいか。

○斎藤副学長：そういう可能性も検討する。

○菅原委員：例えば、評価対象を在学生とした場合、何名くらいを抽出するのか、現在考えている選び方があれば教えてほしい。

○斎藤副学長：それについても外部評価委員会と大学とで調整をしなければいけない。限られた時間の中で、人数を多くするのか、少ない人数で細かな点まで聞き取りをするのか。この点についてもご意見、ご要望があれば頂戴したい。

○菅原委員：例えば、100 名を抽出してアンケートを行い、その中身を見てからさらに数名を抽出してインタビュー調査を行うという方法もある。ある意味生の声が聞くことができるだろう。

○坂田委員：調査を１時間として、１人５分としても 12 人が上限である。私も２段階の調査がよいと思う。自由記述の項目を設けてほしい。評価対象の抽出にあたっては、どこかで目をつぶらなければいけない箇所は出てくるだろう。

○斎藤副学長：平成 25 年度は３・４年生に限定し、１・２年生の内容は次年度以降に行

うという割り切り方も必要かもしれない。

○加藤委員：在学生と卒業生では、どうしても異なる答えが出てくる。やはり両方を評価対象とすることを前提としながら調整していただきたい。

○菊地委員：インタビュー調査では、在学生は大学関係者が同席すると話がしづらいのではないか。

○斎藤副学長：大学からは最低限のサポート役が同席するのみとし、基本的には外部評価委員がインタビューを行う。

(5) その他

○菅原委員：学生を育てるということは、企業における良い社員を育て、良いサービスを行うということと同じイメージである。社員を大別すると、２割は優秀な社員、６割は普通の社員、残り２割はあまり良くない社員となる。後者の２割をいかにして普通の社員にするか、６割の社員をいかにして優秀な社員にするか、これらはその部の責任者の仕事である。学校もそうだと思うが、より多くの学生を優秀な学生として社会に輩出するかという点で、各教員は努力している。今回のインタビュー調査などで得た学生の声をすべて教員に伝えても、各教員の持ち味はある。外部評価委員会は、その中で不足しているところを見つけて、それを伝えることがベストになるだろう。任期の３年間の中でそれができるようにしたい。

○斎藤副学長：今回配付した参考資料について、説明する。

『大学案内』は、高校生向けに配付する、入試広報における最も基本的な大学のガイドブックである。

『事業報告書』は、法人が発行している、法人内各校の新規事業を中心とした各種事業の報告をまとめたものである。

「卒業時意識調査」結果及び「新入生意識調査」結果は、数年前からそれぞれ卒業生と新入生を対象に実施している調査の結果をまとめた資料で、経年評価ができるように毎年同じ調査項目を用いている。

『「学生生活実態調査」にみられる本学学生の特徴』は、私大連と共同で実施している「学生生活実態調査」の結果をもとにまとめた資料である。ここでは、本学は他大学に比べて、学生生活が停滞気味であることを述べている。

『震災学』は、学生に関わるものではないが、震災以降、本学が学術研究の面で震災復興に貢献するという趣旨で発行しているものである。平成 24 年度に二巻発行し、今後も発行予定である。

『押川方義とその時代』は、東北学院の３校祖の一人である押川方義についてまとめたものである。東北学院の歴史を調査し、資料として残すことで、将来的には、東北学院の歴史に関する授業の設置や、全教職員向けのパンフレットを作成するというような構想の一環によるものである。

**５．閉会**

以上

## 平成 25 年度　第２回　東北学院大学外部評価委員会　議事録

〇日　　時：平成 25 年 12 月３日（水）14 時 00 分～17 時 30 分
〇場　　所：東北学院大学土樋キャンパス８号館（３階）第２～４会議室
〇委員出席者：遠藤恵子（委員長）、加藤義雄（副委員長）、坂田隆、関内隆、菅原裕典、菊地健次郎、須藤亨（以上、委員）
〇陪 席 者：松本宣郎（学長）、斎藤誠（学務担当副学長、点検・評価委員会委員長）、日野哲（総務部長）、相澤孝明、村田大（以上、事務局：学長室事務課）
〇配付資料：資料１：外部評価委員会　委員名簿
　　　　　　資料２：前回議事録（平成 25 年度第１回外部評価委員会）
　　　　　　資料３：平成 25 年度外部評価インタビュー調査　実施要領
　　　　　　資料５：平成 25 年度外部評価インタビュー調査　スケジュール
　　　　　　資料５：平成 25 年度外部評価　在学生アンケート調査結果
　　　　　　資料６：インタビュー調査メモ用紙（各会場に設置）

〇司会：斎藤誠（点検・評価委員会委員長）

### １．開会

(1) 配付資料の確認
(2) 本日の流れについて

・事務局：本日の流れを説明する。
　本日のインタビュー調査は２名１チームとして、１回あたり 30 分で、休憩 10 分を挟みつつ、各チーム４回インタビュー調査を行っていただく。
　各会場には、資料６のメモ用紙を設置しているので、必要に応じて使用していただきたい。また、廊下に事務局が待機している。
・斎藤副学長：本日のインタビュー調査の方向性について、外部評価委員長と協議を行った。大学を良くするための方策を見つけ出すような内容にしたい。
　インタビューの大きな二つの柱は、①大学の教育についての要望、良い点、改善を要する点、そして、②教育以外の要望、良い点、改善を要する点、である。これについて、自由に質疑応答を行っていただきたい。
　また、このほかに、大学から聞いていただきたい事項がある。
　在学生については、次の３点である。①どういう意味で学生生活が充実しているのか、②本学の教育内容・方法についての改善点、③職員の窓口対応の満足度が低いことについて、具体的な事例等があれば教えてほしい。
　卒業生については、次の２点である。①在学時の教育内容・方法を振り返っての要望、②在学時の教育が社会に出て役に立ったこと。
　今後の流れについては、調査終了後にあらためて説明する。
・菅原委員：外部評価委員のほかに、記録員がいたり、ボイスレコーダーで録音したりす

るといったことはないのか。
→事務局：今回はそういった準備はしていない。
・遠藤委員長：東北学院大学を選んだ理由について聞いてみてもよいだろう。
・斎藤副学長：そのほかに、卒業生に対しては職業を聞くのもよいだろう。また、冒頭で外部評価の目的をお話していただいてもよいかもしれない。

## ２．インタビュー調査

(1) インタビュー調査（各会場で実施）

(2) 今後の評価の流れについて

・事務局：今後の進め方について連絡する。
これからの外部評価委員会の作業は、『外部評価報告書』の作成である。委員の皆様には、本日のインタビュー調査の結果についてそれぞれ取りまとめていただき、大学事務局にご提出いただきたい。それを大学事務局でさらに取りまとめ、外部評価委員長及び副委員長を中心に報告書のたたき台を作成する。これらの取りまとめ依頼は、近日中に郵送で行う。なお、記入シートの電子データを希望する場合は、事務局に連絡していただきたい。
おおよそのスケジュールとしては、年内中に皆様からご意見を頂戴し、１～２月頃に報告書を完成させ、２月末頃に第３回委員会を開催し、大学にご提出いただくことを考えている。
・斎藤副学長：外部評価委員会で実施した事前アンケート調査の結果について、大学で源データを利用又は講評したいと考えているが、了解をいただきたい。
→遠藤委員長：外部評価委員会として了解した。
・斎藤副学長：記入シートは、調査対象者個人に対して作成するのではなく、全体を通して感じたことを記入してほしい。同じグループであれば一まとめで作成しても問題ない。
最後に、委員の皆様から講評をいただきたい。

（以下、委員講評）
・記録員がいたほうがよいかもしれない。
・時間配分とはちょうどよい。疲れが出ない程度の時間だろう。
・いわゆる優等生タイプの在学生・卒業生が集まったと感じる。
・経済学部と法学部の卒業生はとても優秀だった。就職関係の講師などに推薦できる。
・質問に対してはおおむね好意的な回答が得られたが、授業中に態度が悪い学生がいることを不快に思っている学生が多いと感じた。
・職員の窓口対応については、対象者によってだいぶ回答が異なった。学生側に否がある場合もあったが、冷たい対応をされたという回答はなかった。部署としては、土樋キャンパスの就職課は評判がよく、逆に泉キャンパスはあまり思わしくなかった。

・大学の設備について、建物自体が古いことが意見としてあげられた。ある女子学生からは、洋式トイレを整備してほしいという要望があった。また、多賀城キャンパスについて、教室の壁が薄いために廊下の声が響くこと、女子トイレが少ないことがあげられた。
・研究等に熱心な学生からは、21 時に強制的に退出させられる点について意見があった。
・礼拝が楽しかったという意見が多かった。当時はともかく、振り返ってみると良かったという対象者もいた。このシステムを学生の生きがいになれば良い。学生時代は色々なことに一生懸命で、卒業してから理解が深まることもあるだろう。
・あるグループでは、建学の精神を知っている対象者はいなかった。
・あるグループでは、４人中全員がゼミが充実していたと答えた。
・東北学院大学のブランド力を高く保ってほしい。また、学生には自信を持ってもらえるような大学にしてほしい。

(3) その他

○特になし。

**３．閉会**

以上

平成 25 年度

# 東北学院大学外部評価報告書

発　　行　　日　　平成 26(2014)年３月５日
編 集・発 行　　東北学院大学外部評価委員会
問い合わせ先　　東北学院大学外部評価委員会事務局
（東北学院大学 学長室事務課）
〒980-8511　仙台市青葉区土樋 1-3-1
TEL.022-264-6424　FAX.022-264-6364
E-Mail ck@staff.tohoku-gakuin.ac.jp